米に関するマンスリーレポート

（令和元年9月号）

「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！
http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html

【本資料の目的】
本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】
１．本レポートは、原則として公表２営業日前までの公表資料を反映しています。
２．本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

農林水産省

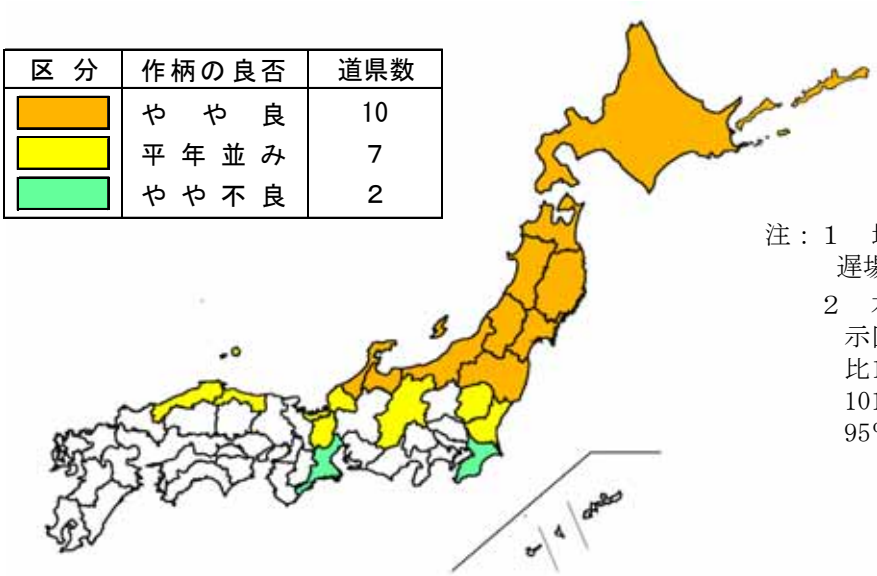
令和元年産水稲の８月15日現在における作柄概況

＿　早場地帯の作柄は、北海道、東北及び北陸は「やや良」、＿
その他の地域はおおむね「平年並み」の見込み

【調査結果】

1　東日本を中心とした早場地帯（19道県）の作柄は、北海道、東北及び北陸は「やや良」、その他の地域はおおむね「平年並み」と見込まれる。これは、田植期以降おおむね天候に恵まれ、7月上中旬は低温・日照不足傾向となったものの、7月下旬以降天候が回復したことから、全もみ数は平年以上に確保されると見込まれ、登熟も順調に推移すると見込まれるためである。

図1　早場地帯の作柄の良否

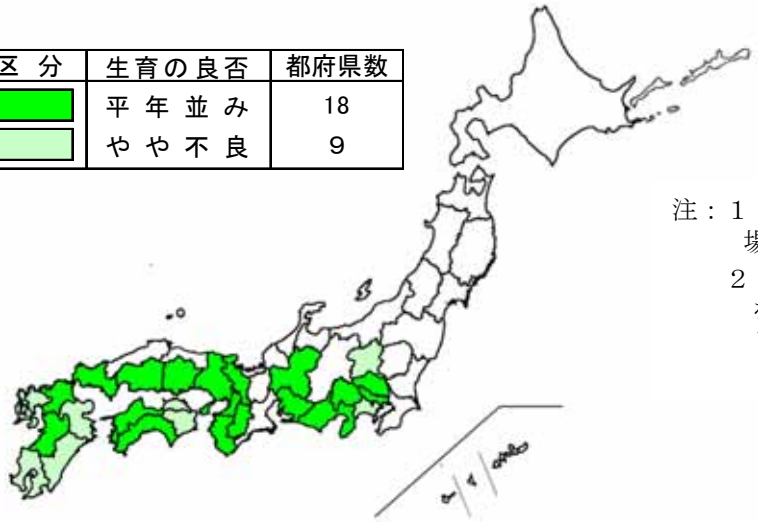


区　分	作柄の良否	道県数
	や　や　良	10
	平 年 並 み	7
	や や 不 良	2

注：1　地図上の白抜きの都府県は、遅場地帯を表す。
2　本図で用いた作柄の良否の表示区分は、「やや良」が対平年比105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良」が98～95%に相当する。

2　西日本を中心とした遅場地帯（沖縄県（第二期稲）を除く27都府県）の生育は、田植期以降おおむね天候に恵まれた中で、一部地域では7月上中旬の低温・日照不足傾向の影響も見込まれ、「平年並み」又は「やや不良」で推移している。

図2　遅場地帯の生育の良否



区　分	生育の良否	都府県数
	平 年 並 み	18
	や や 不 良	9

注：1　地図上の白抜きの道県は、早場地帯を表す。
2　生育の良否は稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

○　作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

1　令和元年産水稲の都道府県別田植及び出穂の状況（8月15日現在）

都道府県	田植期					出穂期					出穂済面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年値	対平年差
				対平年差	対前年差				対平年差	対前年差		
	月　日	月　日	月　日			月　日	月　日	月　日			%	ポイント
北海道	5. 18	5. 23	5. 29	2日早	並み	7. 23	7. 29	8. 4	3日早	4日早	100	0
青森	5. 14	5. 20	5. 28	1日早	1日早	8. 1	8. 4	8. 9	1日早	1日早	100	0
岩手	5. 11	5. 17	5. 24	並み	並み	7. 31	8. 4	8. 9	並み	1日遅	100	0
宮城	5. 4	5. 11	5. 22	並み	並み	7. 30	8. 2	8. 7	1日遅	2日遅	100	1
秋田	5. 14	5. 22	5. 30	並み	1日早	7. 30	8. 2	8. 9	2日早	1日早	100	0
山形	5. 13	5. 18	5. 26	1日早	1日早	7. 31	8. 4	8. 11	1日早	1日遅	100	1
福島	5. 8	5. 16	5. 27	1日早	1日早	8. 2	8. 9	…	1日遅	4日遅	94	△ 2
茨城	4. 27	5. 6	5. 25	並み	1日遅	7. 22	8. 1	8. 13	4日遅	6日遅	97	△ 1
栃木	5. 2	5. 8	6. 15	2日遅	2日遅	7. 28	8. 2	…	3日遅	7日遅	89	△ 2
群馬	5. 22	6. 14	6. 27	並み	1日遅	8. 6	…	…	…	…	37	△ 6
埼玉	4. 28	5. 23	6. 26	1日遅	2日遅	7. 26	8. 12	…	2日遅	5日遅	60	△ 5
千葉	4. 17	4. 29	5. 11	1日遅	2日遅	7. 14	7. 26	8. 7	4日遅	6日遅	100	0
東京	5. 23	6. 9	6. 25	2日早	1日早	8. 6	8. 15	…	2日遅	6日遅	53	△ 8
神奈川	5. 19	6. 1	6. 14	1日早	1日早	8. 3	8. 13	…	2日遅	4日遅	75	△ 7
新潟	5. 4	5. 10	5. 21	並み	並み	7. 24	8. 3	8. 12	2日早	並み	99	0
富山	5. 1	5. 11	5. 19	1日早	1日早	7. 21	8. 1	8. 8	並み	2日遅	100	0
石川	4. 29	5. 5	5. 22	並み	1日遅	7. 17	7. 29	8. 3	並み	2日遅	100	0
福井	5. 2	5. 16	5. 27	並み	1日遅	7. 15	8. 2	8. 13	2日遅	6日遅	98	0
山梨	5. 14	5. 29	6. 19	並み	1日遅	8. 4	8. 10	…	2日遅	4日遅	75	△ 3
長野	5. 12	5. 22	6. 2	1日早	並み	7. 30	8. 8	…	2日遅	5日遅	94	△ 2
岐阜	5. 2	5. 28	6. 11	並み	並み	7. 20	…	…	…	…	48	△ 1
静岡	4. 27	5. 21	6. 14	1日遅	2日遅	7. 21	8. 9	…	2日遅	4日遅	65	△ 4
愛知	5. 1	5. 24	6. 10	並み	1日遅	7. 26	…	…	…	…	43	△ 1
三重	4. 17	5. 1	5. 19	並み	1日遅	7. 18	7. 27	8. 12	4日遅	7日遅	97	△ 1
滋賀	5. 1	5. 10	5. 30	1日遅	2日遅	7. 26	7. 31	8. 15	並み	3日遅	96	1
京都	5. 5	5. 24	6. 6	1日遅	2日遅	7. 23	8. 1	…	2日早	1日遅	83	0
大阪	5. 17	6. 8	6. 20	並み	並み	8. 1	…	…	…	…	27	0
兵庫	5. 12	6. 3	6. 15	1日早	並み	7. 29	8. 11	…	並み	3日遅	63	0
奈良	5. 8	6. 8	6. 14	並み	並み	8. 1	…	…	…	…	30	0
和歌山	5. 4	6. 4	6. 17	並み	1日遅	7. 19	8. 8	…	1日遅	3日遅	83	△ 1
鳥取	5. 6	5. 24	6. 9	1日早	2日早	7. 27	8. 8	…	3日遅	3日遅	81	△ 5
島根	5. 1	5. 16	6. 2	1日遅	並み	7. 20	8. 1	…	2日遅	6日遅	90	△ 2
岡山	5. 12	6. 8	6. 21	並み	1日遅	7. 30	…	…	…	…	39	△ 2
広島	5. 4	5. 18	6. 7	並み	並み	7. 22	8. 8	…	1日遅	4日遅	73	1
山口	5. 10	6. 1	6. 22	並み	並み	7. 28	8. 9	…	並み	2日遅	62	△ 2
徳島（早期栽培）	4. 6	4. 15	5. 2	2日早	1日早	7. 6	7. 16	7. 28	2日遅	3日遅	100	0
（普通栽培）	5. 1	5. 22	6. 12	1日早	1日早	7. 19	7. 31	…	並み	1日遅	85	△ 1
香川	4. 28	6. 14	6. 26	1日早	1日早	7. 20	…	…	…	…	40	△ 1
愛媛	4. 23	6. 3	6. 22	1日遅	2日遅	7. 18	8. 14	…	1日遅	2日遅	56	0
高知（早期栽培）	4. 3	4. 11	4. 21	1日早	並み	6. 24	7. 3	7. 16	1日遅	2日遅	100	0
（普通栽培）	5. 17	5. 26	6. 10	1日早	1日早	8. 11	…	…	…	…	28	2
福岡	5. 18	6. 17	6. 30	並み	1日遅	7. 31	…	…	…	…	34	1
佐賀	5. 5	6. 20	6. 29	並み	1日遅	7. 24	…	…	…	…	23	0
長崎	4. 20	6. 15	6. 30	並み	2日遅	7. 17	…	…	…	…	14	0
熊本	4. 23	6. 15	7. 4	並み	1日遅	7. 14	…	…	…	…	23	△ 1
大分	5. 15	6. 13	6. 30	並み	1日遅	8. 1	…	…	…	…	18	△ 2
宮崎（早期栽培）	3. 20	3. 25	4. 5	2日早	並み	6. 20	6. 24	7. 1	1日早	2日遅	100	0
（普通栽培）	5. 30	6. 15	6. 26	並み	並み	…	…	…	…	…	4	1
鹿児島（早期栽培）	3. 18	4. 4	4. 17	並み	1日遅	6. 15	6. 26	7. 15	1日早	4日遅	100	0
（普通栽培）	6. 10	6. 20	7. 1	1日早	並み	…	…	…	…	…	0	0
沖縄（第一期稲）	2. 14	3. 3	3. 24	4日早	5日早	4. 27	5. 19	6. 12	4日早	2日早	100	0

注：1　田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ５％、50％、95％に達した期日である。

2　出穂期の「始期」、「最盛期」及び「終期」の欄の「…」は、８月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示す。

3　出穂済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

２ 令和元年産水稲早場地帯の作柄概況（8月15日現在）

区　分	作柄概況（平年比較）				
	作柄の良否	穂数の多少	１穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否
北　海　道	やや良	多い	やや少ない	やや多い	平年並み
青　森	やや良	多い	やや少ない	多い	やや不良
岩　手	やや良	多い	やや少ない	やや多い	平年並み
宮　城	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
秋　田	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
山　形	やや良	多い	やや少ない	多い	やや不良
福　島	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み
茨　城	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
栃　木	平年並み	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
千　葉	やや不良	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良
新　潟	やや良	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み
富　山	やや良	多い	やや少ない	やや多い	平年並み
石　川	やや良	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
福　井	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み
長　野	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
三　重	やや不良	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
滋　賀	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
鳥　取	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
島　根	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み

注：　本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106％以上、「やや良・やや多い」が105～102％、「平年並み」が101～99％、「やや不良・やや少ない」が98～95％、「不良・少ない」が94％以下に相当する。

3　令和元年産水稲遅場地帯の生育状況（8月15日現在）

区　分	生育状況（平年比較）		
	生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
群　　馬	やや不良	やや短い	やや少ない
埼　　玉	平年並み	平年並み	平年並み
東　　京	平年並み	平年並み	やや少ない
神　奈　川	やや不良	平年並み	少　な　い
山　　梨	平年並み	平年並み	平年並み
岐　　阜	平年並み	平年並み	平年並み
静　　岡	平年並み	やや長い	やや少ない
愛　　知	平年並み	平年並み	やや少ない
京　　都	平年並み	やや短い	平年並み
大　　阪	平年並み	平年並み	平年並み
兵　　庫	平年並み	平年並み	平年並み
奈　　良	平年並み	やや長い	やや少ない
和　歌　山	平年並み	やや長い	やや少ない
岡　　山	平年並み	平年並み	平年並み
広　　島	平年並み	平年並み	平年並み
山　　口	平年並み	平年並み	やや多い
徳　　島（普通栽培）	やや不良	やや短い	平年並み
香　　川	やや不良	平年並み	やや少ない
愛　　媛	平年並み	やや長い	やや少ない
高　　知（普通栽培）	平年並み	やや長い	平年並み
福　　岡	平年並み	平年並み	平年並み
佐　　賀	やや不良	平年並み	やや少ない
長　　崎	やや不良	やや長い	やや少ない
熊　　本	平年並み	平年並み	平年並み
大　　分	やや不良	やや長い	やや少ない
宮　　崎（普通栽培）	やや不良	平年並み	やや少ない
鹿　児　島（普通栽培）	やや不良	平年並み	やや少ない

注：　生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、８月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではない。

４ 令和元年産水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（8月15日現在）

(1) 10ａ当たり予想収量

区　分	10ａ当たり予想収量 ①	（参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別 10ａ当たり予想収量 ②	10ａ当たり平年収量 ③	作況指数 ④＝②/③	（参考） 作付面積（子実用、見込み） ⑤	予想収穫量 ⑥＝①×⑤
	kg	kg	kg		ha	t
徳　島	455	452	459	98	4,340	19,700
高　知	460	455	476	96	6,440	29,600
宮　崎	459	450	470	96	6,300	28,900
鹿児島	437	427	435	98	4,270	18,700
沖　縄	331	330	359	92	506	1,670

注：１　①10ａ当たり予想収量は、1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米の重量である。

２　（参考）農家等が使用しているふるい目幅で選別の②10ａ当たり予想収量、③10ａ当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域ごとに、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて９割を占めるまでの目幅（四国及び沖縄は1.75㎜、九州は1.80㎜）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

３　沖縄県は第一期稲である（(2)の統計表において同じ。）。

４　（参考）の⑤作付面積（子実用、見込み）は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性がある。

(2) 作柄概況及び刈取済面積割合

区　分	作柄概況（平年比較） 穂数の多少	1穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多少	登熟の良否	刈取済面積割合 当年値	対平年差
					%	ポイント
徳　島	平年並み	やや多い	平年並み	やや不良	7	△ 8
高　知	やや多い	やや多い	多　い	不　良	82	9
宮　崎	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	98	△ 2
鹿児島	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	83	△ 6
沖　縄	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや不良	100	0

注：１　本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106％以上、「やや多い・やや良」が105～102％、「平年並み」が101～99％、「やや少ない・やや不良」が98～95％、「少ない・不良」が94％以下に相当する。

２　刈取済面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示す。

○　令和元年産水稲の８月15日現在における作柄概況は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のＵＲＬから御覧いただけます。
【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y2 】

令和元年産米等の作付意向について（令和元年６月末現在）

令和元年産における各都道府県の主食用米、戦略作物等の作付意向について、６月末現在の状況を取りまとめました。

都道府県別の作付意向（令和元年6月末現在）

・　令和元年６月末現在の都道府県別の作付意向については、平成31年４月末現在の作付意向と比較すると、作付面積について主食用米では対前年で減少傾向にある県の数は同数となっており、６月末現在において前年実績(138.6万ha)から微減と推計されます。一方、戦略作物(飼料用米(減少28県→36県)、加工用米(減少18県→25県))については、対前年で減少傾向にある県の数は増加し、また備蓄米では対前年で増加傾向にある県の数はわずかな増加(※)(増加30県→31県)となっていることから、このため令和元年産おいては、加工用米・飼料用米の取組計画の追加変更を８月末までとし、備蓄米の入札も８月末まで実施する等の対応を行ったところです。

・　なお、例年どおり９月末には令和元年産の都道府県別及び地域農業再生協議会別の主食用米及び戦略作物等の作付面積を公表する予定です。

(1)　各都道府県の主食用米の作付意向
平成30年産実績と比較すると以下のとおりと見込まれています。
増加傾向０県／前年並み傾向32県／減少傾向15県

(2)　各都道府県の戦略作物等の作付意向
平成30年産実績との比較による各都道府県の戦略作物等の作付意向は、以下のとおりと見込まれています。

ア　備蓄米
増加傾向31県／前年並み傾向１県／減少傾向０県
イ　飼料用米
増加傾向７県／前年並み傾向２県／減少傾向36県
ウ　加工用米
増加傾向14県／前年並み傾向５県／減少傾向25県
エ　ＷＣＳ（稲発酵粗飼料稲）
増加傾向18県／前年並み傾向13県／減少傾向12県
オ　米粉用米
増加傾向25県／前年並み傾向１県／減少傾向19県
カ　新市場開拓米（輸出用米等）
増加傾向22県／前年並み傾向２県／減少傾向12県
キ　麦
増加傾向18県／前年並み傾向16県／減少傾向12県
ク　大豆
増加傾向12県／前年並み傾向12県／減少傾向21県
（注）「麦」「大豆」については、二毛作面積を含む

令和元年産米等の作付意向について（令和元年６月末現在）

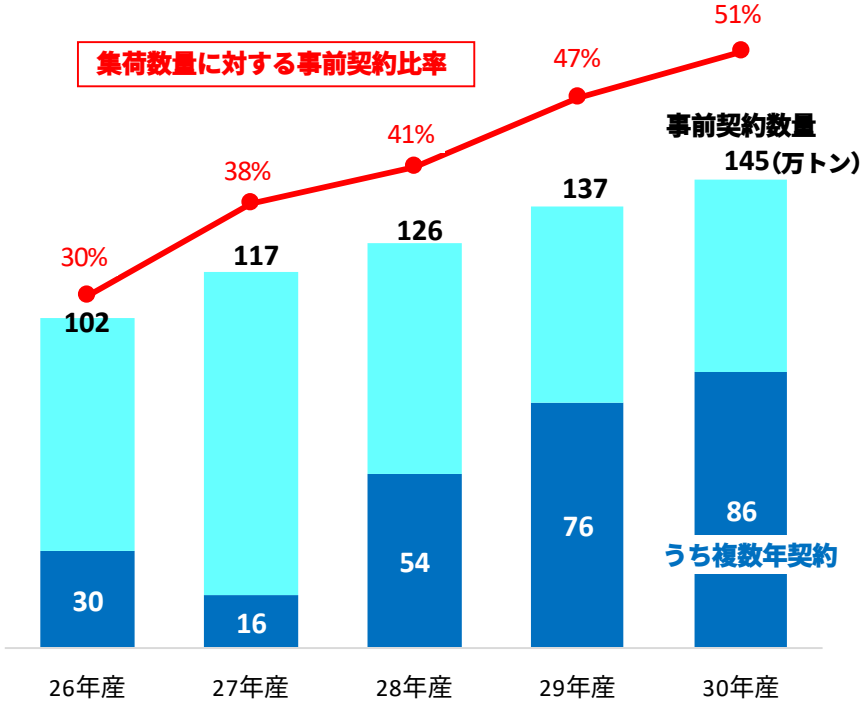
都道府県	主食用米			備蓄米			戦略作物																				
	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績）		30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績）		飼料用米			加工用米			WCS（稲発酵粗飼料稲）			米粉用米			新市場開拓用米（輸出用米等）			麦			大豆		
		4月末時点	6月末時点		4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末	30年産実績（ha）	元年産の意向（対前年実績） 4月末	6月末
全国計	138.6万			21,606			79,535			51,490			42,545			5,295			3,578			169,513			115,148		
北海道	98,900	↘	↘	0	↗	↗	1,841	↗	↗	4,547	↗	↗	540	↗	↗	57	↘	↘	537	↘	↗	32,501	↗	↗	19,134	↘	↘
青森	39,600	↘	↘	2,770	↗	↗	5,434	↘	↘	1,726	↘	↘	662	↘	→	5	↘	↗	112	↗	↗	667	↘	→	4,556	↘	↘
岩手	48,800	↘	↘	47	↗	↗	3,986	↘	↘	1,199	↗	↗	1,620	→	↗	58	↘	↘	171	↗	↗	3,379	→	→	3,748	↘	↘
宮城	64,500	→	→	1,404	↗	↗	5,553	↘	↘	1,107	↘	↘	2,006	→	↗	68	→	↘	213	↗	↗	2,162	↗	↗	10,198	↗	↗
秋田	75,000	→	→	2,393	↗	↗	1,993	↘	↘	9,786	↘	↘	1,229	↘	↘	233	↗	↗	252	→	↘	309	↘	↘	7,835	→	→
山形	56,400	→	→	3,508	↗	↗	3,704	↘	↘	4,141	↗	→	908	↗	↗	136	↘	↘	226	↗	→	79	↘	↘	4,839	↘	↘
福島	61,200	↘	↘	3,170	↗	↗	5,275	↘	↘	439	↘	↘	1,052	↘	↘	2	↘	↗	38	↗	↗	207	↗	↗	885	↘	→
茨城	66,800	→	→	122	↗	↗	8,003	↘	↘	1,260	→	→	550	↘	↘	39	↘	↘	224	↗	↗	4,718	↘	→	2,335	↘	↘
栃木	54,700	→	→	1,046	↗	↗	9,155	↘	↘	2,023	→	↗	1,626	↘	↘	604	↗	↗	54	→	↘	10,900	↘	↘	2,176	↘	↘
群馬	13,700	→	→	2	↗	↗	1,243	↘	↘	1,480	→	→	519	↗	↗	324	↘	↗	3	↗	↗	6,679	↗	↗	122	↗	↗
埼玉	30,800	→	→	38	↗	↗	1,669	↘	↘	296	→	↘	120	↘	↘	618	↗	↗	12	↗	↗	4,752	→	→	433	↗	↗
千葉	53,900	↘	→	120	↗	↗	4,379	↘	↘	1,583	→	↘	984	↘	↘	44	↘	↘	19	↗	↘	557	↗	↘	581	↗	↗
東京	133	→	→	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	→	→	0	-	-	0	-	-	0	-	-
神奈川	3,080	→	→	0	-	-	13	→	↘	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	7	→	↘	9	→	→
新潟	104,700	→	→	2,677	↗	↗	2,908	↘	↘	7,851	↘	↘	386	↘	→	1,932	↘	↘	866	↘	↘	185	↗	↗	4,310	↘	↘
富山	33,300	↘	→	2,086	↗	↗	1,229	↗	↗	1,549	↘	↘	405	→	↗	78	↗	↗	219	↗	↗	3,309	↘	↘	4,684	↘	↘
石川	23,200	↘	↘	875	↗	↗	645	↘	↘	795	↘	↘	87	↘	↗	71	↗	↗	163	↘	↘	1,091	→	→	1,208	↘	↘
福井	23,600	↘	→	469	↗	↗	1,217	↘	↘	741	→	↘	102	↘	↘	91	↗	↘	117	↗	↗	4,781	↘	↘	1,760	→	→
山梨	4,820	→	→	0	-	-	16	→	↗	78	↘	↘	12	↗	↗	3	↗	↗	0	→	↘	61	↘	↘	117	↘	↘
長野	31,300	→	→	44	↗	↗	267	→	↘	745	↘	→	240	→	↘	23	↘	↘	61	→	↗	2,336	↗	↗	1,420	↗	↗
岐阜	21,500	→	→	48	↗	↗	2,347	↘	↘	934	↗	↘	208	↘	↘	27	→	↘	49	↗	↗	3,405	→	→	2,811	→	→
静岡	15,700	→	→	0	↗	↗	1,139	↘	↘	104	↗	↗	217	↗	↗	10	→	↗	2	→	↘	732	→	→	156	→	→
愛知	26,700	→	→	79	↗	↗	1,449	↘	↘	668	→	↘	193	↘	↘	63	→	↗	21	→	↗	5,408	↗	↗	4,116	→	→
三重	27,100	→	→	0	↗	↗	1,691	→	↘	249	→	↘	239	→	↗	86	→	↗	43	↗	↘	6,391	↗	↗	4,284	→	→
滋賀	30,100	→	→	200	↗	↗	941	→	→	1,188	↘	↘	255	↘	↘	31	↘	↘	80	↗	↗	7,672	↘	↘	6,439	↘	↘
京都	13,900	→	→	0	-	-	122	↗	↗	512	↗	↗	107	↗	↗	6	↘	↘	12	↗	↗	251	→	→	247	↘	↘
大阪	5,000	↘	↘	0	-	-	6	→	↗	0	→	↘	0	-	-	4	→	↗	0	-	-	3	→	→	5	→	→
兵庫	35,500	→	→	0	-	-	281	↗	↗	639	↘	↘	787	→	→	26	↗	↗	6	↘	↘	2,291	↗	↗	2,019	↗	↗
奈良	8,530	→	→	0	-	-	43	↘	↘	15	→	→	44	→	→	30	↘	↘	0	-	-	107	→	→	51	→	→
和歌山	6,430	→	↘	0	-	-	3	↘	↘	0	-	-	2	↘	↗	0	-	↗	0	-	-	1	↘	↘	15	↘	↘
鳥取	12,700	→	→	67	↘	↗	794	↘	↘	18	↘	↘	359	↗	↗	0	↗	↗	0	-	-	130	↘	↗	668	↘	↘
島根	17,200	↘	→	14	↗	↗	983	↘	↘	242	↗	↗	533	↗	↗	2	↗	↗	0	↗	↗	583	→	→	577	↗	↗
岡山	29,400	→	→	146	↗	↗	1,254	↘	↘	434	→	↗	367	↘	↘	65	↗	↗	5	↗	↗	2,805	↗	↗	1,216	↗	↗
広島	22,900	→	↘	0	↗	↗	441	→	↘	350	→	↘	562	→	→	112	↘	↘	3	→	→	254	↗	↗	343	→	↗
山口	18,900	↘	↘	0	-	-	874	↗	↗	924	↗	↘	305	↗	↗	9	↗	↗	1	→	↗	1,842	↗	↗	829	↘	↘
徳島	11,200	↘	↘	166	↗	↗	543	↘	↘	26	↘	↘	217	↘	→	15	→	↗	20	↗	↗	120	↗	↘	22	↘	↘
香川	12,500	↘	↘	0	-	-	131	→	↘	42	↘	↘	111	↘	↗	7	↘	↘	0	-	-	2,605	↗	↗	52	↗	↗
愛媛	13,900	→	→	0	-	-	319	↘	↘	36	→	↗	135	↗	↗	4	↗	↘	6	↗	↘	1,918	→	↗	322	↗	↗
高知	11,400	→	→	2	→	→	944	→	↘	58	↘	↗	228	→	→	18	↘	↘	0	-	-	9	→	↘	69	↘	↘
福岡	34,900	→	→	33	↗	↗	2,033	↗	↘	243	↘	↘	1,500	→	→	183	↗	↗	9	→	↘	21,295	↗	→	8,263	↗	→
佐賀	24,000	↘	↘	41	↗	↗	584	→	→	267	↗	↗	1,399	↗	↗	9	↗	↗	4	↗	↗	20,541	→	↗	7,894	↘	↘
長崎	11,400	→	→	0	-	-	131	↘	↘	10	↘	↘	1,204	→	→	6	↘	↘	0	-	-	1,189	→	→	354	→	→
熊本	32,300	→	→	18	↗	↗	1,269	↘	↘	754	↘	↘	7,748	→	→	161	↗	↗	20	↗	↘	6,402	→	→	2,084	→	↗
大分	20,600	→	↘	17	↗	↗	1,428	↘	↘	101	↗	↗	2,451	→	→	17	↘	↘	0	-	-	4,648	↘	↗	1,473	→	↘
宮崎	14,700	↘	↘	0	-	-	433	→	↘	1,360	↗	↗	6,682	→	→	17	↗	↗	10	↗	↗	121	→	↗	218	→	↘
鹿児島	18,300	→	→	0	-	-	822	↘	↘	967	↗	↗	3,645	→	→	1	↗	↗	0	↗	↗	109	→	→	271	↘	↘
沖縄	716	→	↘	0	-	-	0	-	-	0	-	↗	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	→	→	0	-	-

（注1） 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「令和元年産の意向（対前年実績）」は、平成30年産作付実績と比較し、「↗：増加傾向」、「→：前年並み傾向」、「↘：減少傾向」で分類。
（注2） 主食用米の「30年産実績（ha）」は、平成30年12月10日統計部公表の主食用作付面積。
（注3） 飼料用米、加工用米、WCS、米粉用米、新市場開拓用米の「30年産実績（ha）」は、平成30年産新規需要米の取組計画認定面積。麦・大豆の「30年産実績（ha）」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積で、二毛作を含む。
（注4） 備蓄米の「30年産実績（ha）」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

都道府県別事前契約数量（速報）

- 事前契約数量は、近年増加傾向にあり、令和元年7月末現在、平成30年産は対29年産比６％増の145万トンとなっている。

【近年の事前契約数量の推移】



注：「事前契約数量」は、収穫前の段階において確認書等により販売数量が決定している数量であり、上記数量は各年産の収穫時点における最終実績である。

【30年産・元年産の各年7月末現在の産地別事前契約数量】

単位：千玄米トン

都道府県	（参考）30年産集荷数量	事前契約数量 30年産（平成30年7月末現在）①	元年産（令和元年7月末現在）②	対前年同月差 ②-①
北海道	309.5	177.4	172.2	▲5.2
青森	148.8	35.0	11.3	▲23.7
岩手	129.2	0.4	82.1	81.8
宮城	171.6	124.2	126.9	2.7
秋田	251.3	48.0	145.1	97.1
山形	184.5	19.1	21.0	1.8
福島	158.7	45.3	43.2	▲2.1
茨城	71.5	－	－	－
栃木	136.4	65.8	69.6	3.8
群馬	25.0	－	－	－
埼玉	18.4	－	0.6	0.6
千葉	79.4	10.3	8.1	▲2.2
東京	－	－	－	－
神奈川	2.3	－	－	－
山梨	5.9	－	－	－
長野	67.1	26.3	31.0	4.7
静岡	6.0	－	0.0	0.0
新潟	261.0	87.3	110.7	23.5
富山	91.9	0.7	0.7	－
石川	27.2	1.5	1.5	－
福井	69.9	7.9	9.3	1.4
岐阜	19.5	－		－
愛知	32.0	－	1.5	1.5
三重	28.6	－	－	－

都道府県	（参考）30年産集荷数量	事前契約数量 30年産（平成30年7月末現在）①	元年産（令和元年7月末現在）②	対前年同月差 ②-①
滋賀	56.7	40.0	7.7	▲32.3
京都	9.4	－	－	－
大阪	－	－	－	－
兵庫	40.1	－	13.0	13.0
奈良	7.9	－	－	－
和歌山	0.9	－	－	－
鳥取	22.3	－	4.1	4.1
島根	38.1	－	2.4	2.4
岡山	22.6	－	－	－
広島	32.5	2.0	－	▲2.0
山口	40.1	3.3	0.1	▲3.2
徳島	4.9	－	－	－
香川	21.5	－	3.3	3.3
愛媛	9.9	－	－	－
高知	8.4	0.4	2.1	1.7
福岡	52.8	－	0.6	0.6
佐賀	42.0	－	－	－
長崎	11.5	－	－	－
熊本	38.0	－	－	－
大分	11.9	－	－	－
宮崎	14.8	－	－	－
鹿児島	12.1	－	－	－
沖縄	1.6	－	－	－
全国	**2,851**	**695**	**868**	**173**

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1　報告対象業者は、年間取扱数量5,000トン以上の出荷業者である。
　　2　「事前契約数量」は、収穫前の段階において確認書等により販売数量が決定している数量であり、上記数量は各年産、生産年7月末時点における数量である。

- 令和元年産の令和元年７月末現在の事前契約数量は対前年同月差＋17万トンの87万トン、うち複数年契約数量は＋14万トンの83万トンとなっている。

令和元年産・平成30年産　都道府県別事前契約状況（生産年７月末現在）

単位：千玄米トン

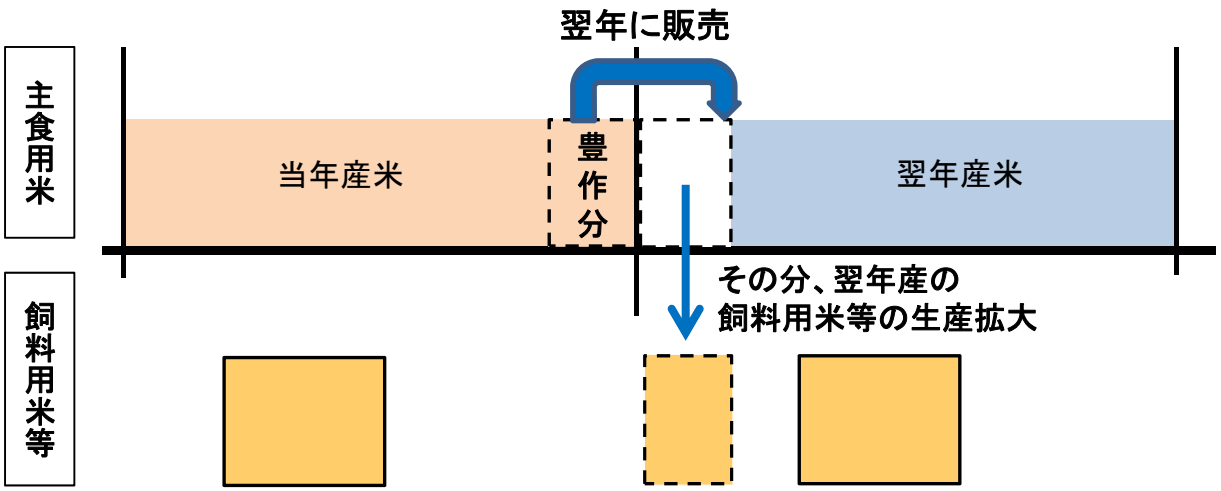
都道府県	平成30年産米（平成30年7月末現在）			令和元年産米（令和元年7月末現在）			対前年同月差		
	事前契約数量 ①	複数年契約 ②	播種前・収穫前契約 ③	事前契約数量 ④	複数年契約 ⑤	播種前・収穫前契約 ⑥	事前契約数量 ④-①	複数年契約 ⑤-②	播種前・収穫前契約 ⑥-③
北海道	177.4	177.4	－	172.2	172.2	－	▲5.2	▲5.2	－
青森	35.0	35.0	－	11.3	11.3	－	▲23.7	▲23.7	－
岩手	0.4	0.4	－	82.1	82.1	－	81.8	81.8	－
宮城	124.2	124.2	－	126.9	113.7	13.2	2.7	▲10.5	13.2
秋田	48.0	48.0	－	145.1	136.2	8.9	97.1	88.1	8.9
山形	19.1	19.1	－	21.0	21.0	－	1.8	1.8	－
福島	45.3	37.5	7.8	43.2	43.2	－	▲2.1	5.6	▲7.8
茨城	－	－	－	－	－	－	－	－	－
栃木	65.8	65.8	－	69.6	69.6	－	3.8	3.8	－
群馬	－	－	－	－	－	－	－	－	－
埼玉	－	－	－	0.6	0.6	－	0.6	0.6	－
千葉	10.3	10.3	－	8.1	8.1	－	▲2.2	▲2.2	－
東京	－	－	－	－	－	－	－	－	－
神奈川	－	－	－	－	－	－	－	－	－
山梨	－	－	－	－	－	－	－	－	－
長野	26.3	26.3	－	31.0	31.0	－	4.7	4.7	－
静岡	－	－	－	0.0	－	0.0	0.0	－	0.0
新潟	87.3	87.3	－	110.7	110.7	－	23.5	23.5	－
富山	0.7	0.7	－	0.7	0.7	－	－	－	－
石川	1.5	1.5	－	1.5	1.5	－	－	－	－
福井	7.9	7.9	－	9.3	9.3	－	1.4	1.4	－
岐阜	－	－	－	－	－	－	－	－	－
愛知	－	－	－	1.5	1.5	－	1.5	1.5	－
三重	－	－	－	－	－	－	－	－	－
滋賀	40.0	40.0	－	7.7	7.7	－	▲32.3	▲32.3	－
京都	－	－	－	－	－	－	－	－	－
大阪	－	－	－	－	－	－	－	－	－
兵庫	－	－	－	13.0	－	13.0	13.0	－	13.0
奈良	－	－	－	－	－	－	－	－	－
和歌山	－	－	－	－	－	－	－	－	－
鳥取	－	－	－	4.1	－	4.1	4.1	－	4.1
島根	－	－	－	2.4	2.4	－	2.4	2.4	－
岡山	－	－	－	－	－	－	－	－	－
広島	2.0	2.0	－	－	－	－	▲2.0	▲2.0	－
山口	3.3	0.8	2.5	0.1	0.1	－	▲3.2	▲0.8	▲2.5
徳島	－	－	－	－	－	－	－	－	－
香川	－	－	－	3.3	3.3	－	3.3	3.3	－
愛媛	－	－	－	－	－	－	－	－	－
高知	0.4	－	0.4	2.1	－	2.1	1.6	－	1.6
福岡	－	－	－	0.6	0.6	－	0.6	0.6	－
佐賀	－	－	－	－	－	－	－	－	－
長崎	－	－	－	－	－	－	－	－	－
熊本	－	－	－	－	－	－	－	－	－
大分	－	－	－	－	－	－	－	－	－
宮崎	－	－	－	－	－	－	－	－	－
鹿児島	－	－	－	－	－	－	－	－	－
沖縄	－	－	－	－	－	－	－	－	－
全国	**695**	**684**	**11**	**868**	**827**	**41**	**173**	**142**	**31**
うち価格取決数量	**85**			**99**			**14**		

資料：　農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1　報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、
　　出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
　2　報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
　3　事前契約数量とは、は種前・収穫前契約及び複数年契約のうち、確認書等により販売数量が決定している数量である。
　4　価格取決数量とは、販売数量と販売価格又は販売価格水準（基準価格の90パーセントから110パーセントまでの範囲）が決定している数量である。
　5　「－」は、事前契約数量に該当がないもの。

主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

①　主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：令和2年度予算概算要求額50億円（前年度：50億円））
- 必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：令和２年度予算概算要求額 3,215億円（前年度：3,215億円））



②　米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

＜対策のポイント＞
生産者、集荷業者・団体の自主的な取組により需要に応じた生産・販売が行われる環境を整備し、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を実施する体制を構築するため、**民間主導のコメの周年供給・需要拡大等に対する取組を支援。**

＜政策目標＞
生産者、集荷業者・団体による自主的な経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた米の生産・販売の実現。

＜事業の内容＞

全国事業

1．業務用米等の安定取引拡大支援

産地と中食･外食事業者等との安定取引を拡大するため、**民間団体が行う業務用米の生産･流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援**します。

産地

2．周年供給･需要拡大支援

産地において、あらかじめ生産者等が積立てを行い、以下の取組を実施する場合に支援します（※）。

① 主食用米を**翌年から翌々年以降に長期計画的に販売**する取組（収穫前契約や複数年契約の場合は追加的に支援）
② 主食用米を**輸出向けに販売する際の商品開発、販売促進等**の取組
③ 主食用米を**業務用向け等に販売する際の商品開発、販売促進等**の取組
④ 主食用米を**非主食用へ販売**する取組

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発･導入を行う場合等に支援します。

＜事業の流れ＞

国 → 定額 → 民間団体（1の事業）
国 → 定額、1/2以内 → 集荷業者･団体（2の事業）

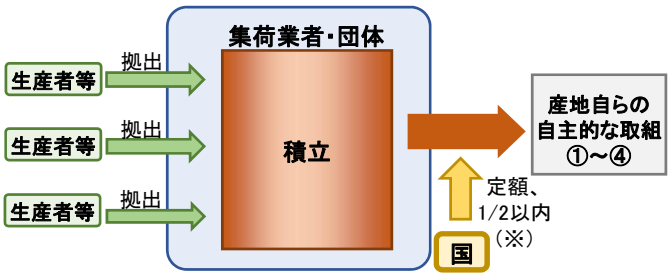
＜事業イメージ＞

1．業務用米等の安定取引拡大支援

〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕

2．周年供給･需要拡大支援



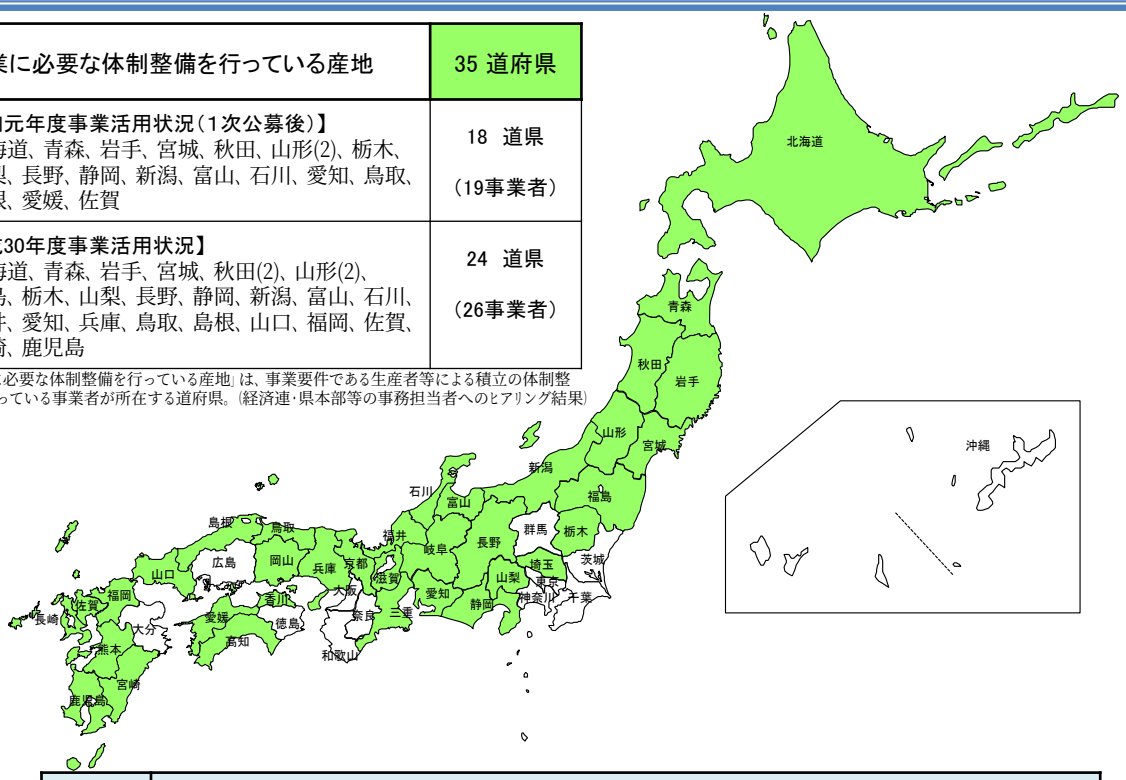
（※）値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

③　米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 　米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、35道府県の38事業者において行われている状況。
- 　これまで、平成27年度17道県（18事業者）、平成28年度25道県（27事業者）、平成29年度25道県（27事業者）、平成30年度24道県（26事業者）が事業を活用。
- 　令和元年度は1次公募で18道県（19事業者）が事業を活用しており、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続･推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	35 道府県
【令和元年度事業活用状況（1次公募後）】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形(2)、栃木、山梨、長野、静岡、新潟、富山、石川、愛知、鳥取、島根、愛媛、佐賀	18　道県 （19事業者）
【平成30年度事業活用状況】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田(2)、山形(2)、福島、栃木、山梨、長野、静岡、新潟、富山、石川、福井、愛知、兵庫、鳥取、島根、山口、福岡、佐賀、長崎、鹿児島	24　道県 （26事業者）

注）「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による積立の体制整備等を行っている事業者が所在する道府県。（経済連･県本部等の事務担当者へのヒアリング結果）



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	**【長期計画的販売の取組】** ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 **【輸出向けへの販売促進等の取組】** ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 **【業務用向け等への販売促進等の取組】** ・ 各種メディア及びイベントを活用した北海道産米のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	**【長期計画的な販売の取組】** ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 **【業務用向け等への販売促進等の取組】** ・ 各種メディア及びイベントを活用した秋田県産米のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	**【輸出向けへの販売促進等の取組】** ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 **【業務用向け等への販売促進等の取組】** ・ 各種メディア及びイベントを活用した山形県産米のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
新潟	**【長期計画的な販売の取組】** ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 **【業務用向け等への販売促進等の取組】** ・ 各種メディア及びイベントを活用した新潟県産米のPR ・ JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施 ・ インターネット調査による新潟県産米の認知度･消費者ニーズ等の把握
石川	**【長期計画的販売の取組】** ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 **【輸出向けへの販売促進等の取組】** ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 **【業務用向け等への販売促進等の取組】** ・ 各種メディア及びイベントを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

米の生産、集荷、販売、実需者などの皆様へ

「米の安定取引に向けた取組」へのお願い

－産地と実需の結び付きによる安定的な取引関係の構築－

「需給・価格の安定」のために皆様へお願いしたい３つのこと

1　産地側から実需者側に直接販売するルートの拡大

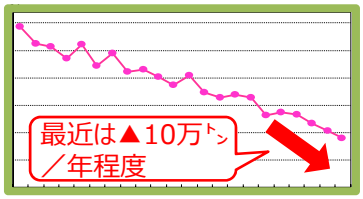
2　産地と実需者間での複数年契約等の事前契約の拡大

3　用途毎の品質や価格ニーズに対応するため、多収品種の導入等による生産コストの低減

米をめぐる現状

①　米の消費動向

・　我が国の主食用米の消費量は、今後、毎年「約10万トン」程度減少すると見込まれる



②　中食・外食事業者からの声

・　消費量が減少見込みの中、中食・外食向けの米の消費量は堅調に推移

・　一方、中食・外食事業者からは希望する価格帯での調達が難しくなったとの声

米消費における中食・外食割合

H9	18.9%
H30	30.0%

③　新たな需要の拡大

・　米粉用や輸出用などの新たな需要が拡大する傾向

こうした状況の中で、今後とも米の需給及び価格の安定を図っていくためには、

①　**産地側が実需者側のニーズを的確に把握すること**

②　**産地側と実需者側がしっかりと結び付いた安定的な取引関係を構築すること**

が重要です。

上記３つの取組実施により、**全体での需給の均衡**と、**産地は「安定的な販路の確保」**、**実需者は「安定的な仕入れの確保」**が、それぞれ図られるものと考えられます。

農林水産省による取組支援

・　農林水産省としても、こうした取組を後押しするため、実需者と産地のマッチング支援や複数年契約の拡大、一般家庭用向け及び中食・外食向けの米の販売動向等の情報提供、各産地における多収性品種の導入等の取組の推進等に努めます。

実需者と産地のマッチングイベント「米マッチングフェア」への支援

「米に関するマンスリーレポート」での情報提供

○ 事前契約及び複数年契約数量

播種前時点での事前契約の状況を都道府県別に調査・公表

都道府県	令和元年産米（平成31年3月末現在）		平成30年産米（平成30年3月末現在）		対前年同月差	
	事前契約数量 ①	うち複数年契約 ②	事前契約数量 ③	うち複数年契約 ④	事前契約数量 ①-③	うち複数年契約 ②-④
北　海　道	153.7	153.7	133.6	133.6	20.0	20.0
青　　森	10.2	10.2	35.0	35.0	▲24.8	▲24.8

○ 中食・外食向けの米の仕入状況調査

中食・外食事業者に対して、米の仕入数量・価格の動向を調査・公表

仕入数量の動向（平成31年１～３月）

前年からの変動	10%以上増加	5～9%増加	1～4%増加	前年同	1～4%減少	5～9%減少	10%以上減少
企業数割合	18%	14%	20%	14%	10%	10%	15%

生産コスト低減に向けた具体的な取組

省力栽培技術の導入

直播栽培（育苗・田植えを省略）

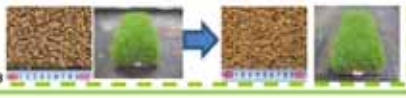
（実証例）
労働時間
18.4時間/10a→13.8時間/10a
（移植）　（直播）
費用（種子・地代は含まない）
103千円/10a →93千円/10a
（移植）　（直播）

スマート農業技術の活用

営農管理システムの導入等により、作業のムダを見つけて手順を改善
（実証例）
田植え作業時間
1.62時間/10a→1.15時間/10a
（補植作業時間の削減）

密苗栽培

育苗箱数を減らせるため、資材費の低減が可能。
苗継ぎも少なく省力的
（実証例）育苗箱数　15～18箱/10a →　5～6箱/10a



大規模経営に適合した品種

多収品種

単収
530kg/10a→700kg/10a
（全国平均）　（多肥栽培で単収増）
生産費
16千円/60kg（全国平均）
→13千円/60kg（試算）

作期の異なる品種の組合わせ

作期を分散することで、同じ人数で作付を拡大でき、機械稼働率も向上

担い手への農地集積・集約等

● 今後10年間（2023年まで）で全農地面積の８割を担い手に集積
- 分散錯圃の解消
- 農地の大区画化、汎用化

生産資材費の低減

農業生産資材価格の引下げ

- 生産資材業界の再編や法規制等の見直し
- 生産資材価格や取引条件等の「見える化」

農業機械の低コスト仕様

・基本性能の絞り込み
・耐久性の向上

⇒基本性能を絞った海外　向けモデルの国内展開等
（標準モデル比2～3割の　低価格化）

肥料コストの低減

・土壌診断に基づく施肥量の適正化（肥料の自家配合等）、精密可変施肥
・フレキシブルコンテナの利用（機械化による省力化等）

⇒土壌改良資材のフレコン利用
（20kg袋比7%低価格化）

合理的な農薬使用

・発生予察による効果的かつ効率的防除
・輪作体系や抵抗性品種の導入等の多様な手法を組み合わせた防除（IPM）
⇒ 化学農薬使用量抑制

未利用資源の活用

・鶏糞焼却灰等の利用

⇒従来品比
7%低価格化

○問い合わせ先　農林水産省政策統括官付農産企画課米穀需給班
代表：03-3502-8111（内線4975）　直通：03-6738-8973

目　次

Ⅰ　米の需給・契約・販売
１　主食用米等の需給見通し（米の基本指針(令和元年７月31日)）
（１）平成30/令和元年の需要実績（速報値）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
（２）令和元/２年の需要見通し（推計値）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（３）令和元/２年の需給見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２　米の契約・販売
（１）政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果 ・・・・・・・・・・・・・・ 4
（２）平成30年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、令和元年７月末現在）（速報）　・・ 5

Ⅱ　米の在庫情報
（１）全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成25年７月末～令和２年６月末）（速報）　・・11
（２）産地別民間在庫の状況（前年同月比）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（３）平成30・令和元年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）　・・・・・・・・・・・14

Ⅲ　米の価格情報
１　相対取引価格・数量
（１）相対取引価格（年産別）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（２）価格帯別分析結果（令和元年７月）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
（３）相対取引価格・数量（平成30年産米、産地品種銘柄別、令和元年７月分）（速報）　・・・24

２　スポット価格の状況（日本コメ市場株式会社）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
３　米の先物取引価格の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
４　米取引関係者の判断（米穀機構による調査、令和元年８月分）　・・・・・・・・・・・・・・30

Ⅳ　主食用米以外（輸出を含む）
１　30年産米の作付状況
（１）30年産米の用途別作付面積及び生産量・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
（２）主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）　・・・・・・・・・・・・・・・・32
（３）新規需要米の用途別認定状況　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

２　加工用米及び新規需要米の取組状況概要
（１）29米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）　・・・・・・・・・・・・・・・33
（２）加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

３　酒造好適米の需給状況
（１）日本酒の出荷状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
（２）日本酒原料米の使用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
（３）酒造好適米の生産量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
（４）酒造好適米の需要量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

４　飼料用米の需要量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
５　コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
６　コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について ・・・・・・・・・・・・・・・・40

Ⅴ　支援事業等
（１）水田活用の直接支払交付金 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
（２）畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
（３）米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）　・・・・・・・・・・・・・・・・・47
（４）コメ海外市場拡大戦略プロジェクト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

Ⅵ　消費動向

（１）米の消費動向（米穀機構による調査）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
（２）購入数量の推移（家計調査）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
（３）消費者物価指数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
（４）小売物価統計の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
（５）米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
（６）中食・外食事業者の米の仕入状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
（７）小売価格の推移（ＰＯＳデータ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

Ⅶ　輸入米（ＭＡ米、ＣＰＴＰＰ・国別枠）の動向

１　ＭＡ米（一般、ＳＢＳ）

（１）ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
（２）加工原材料用に係る政府所有ＭＡ米の見積合わせ結果(平成31年度)　・・・・・・・・・・・59
（３）SBS輸入米の見積合わせ結果(平成30年度)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

２　ＣＰＴＰＰ・国別枠の見積合わせ結果（令和元年度）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・61

Ⅷ　その他

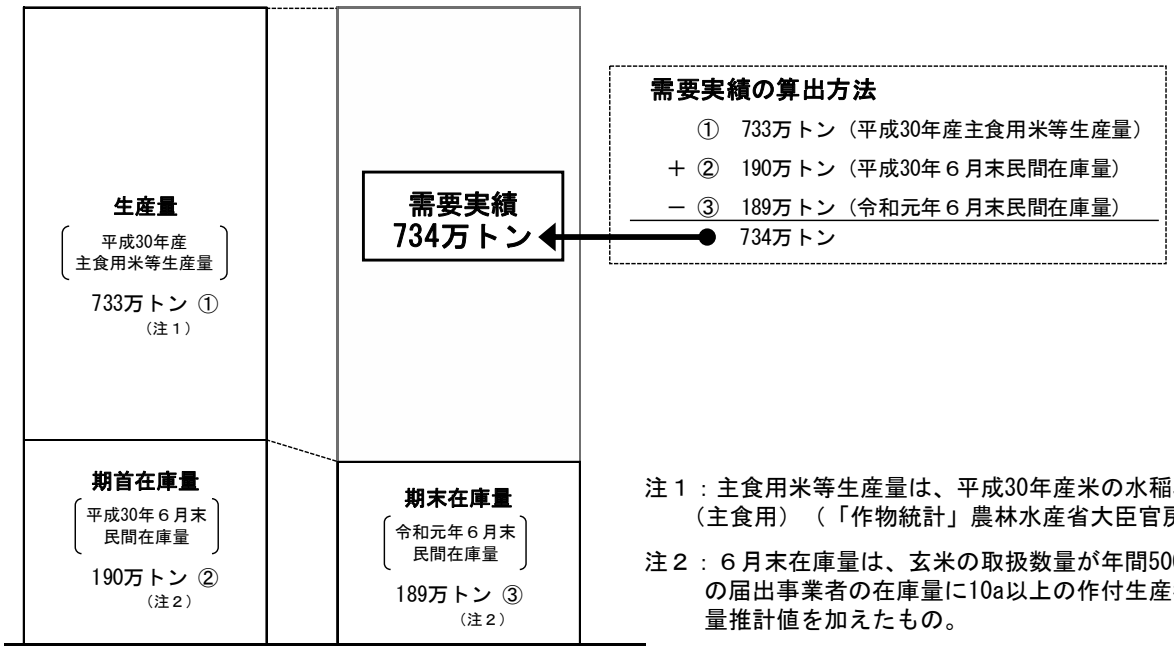
（１）水稲うるち玄米の農産物検査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
（２）平成30年産水陸稲の収穫量　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

Ⅰ　米の需給・契約・販売

1　主食用米等の需給見通し（米の基本指針(令和元年７月31日)）

（１）　平成30/令和元年の需要実績（速報値）

- 平成30/令和元年（平成30年７月から令和元年６月までの１年間）の需要実績は、前年（740万トン）から６万トン減少し、734万トンとなった。
- 令和元年6月末民間在庫量は、前年から１万トン減少し、189万トンとなった。



注１：主食用米等生産量は、平成30年産米の水稲収穫量（主食用）（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）。

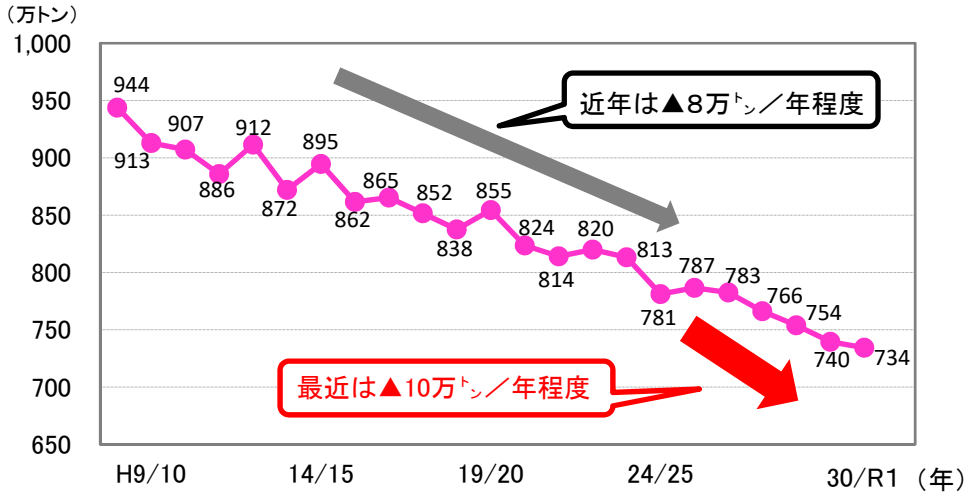
注２：６月末在庫量は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に10a以上の作付生産者の在庫量推計値を加えたもの。

（参考：６月末民間在庫量の推移）

（万トン）

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年（速報値）
民間在庫	213	175	182	184	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199	190	189

（参考：主食用米の需要量の推移）



（2）　令和元/２年の需要見通し（推計値）

- 令和元/２年の需要見通しについては、平成30年11月の基本指針において採用した下記手法により算出し、726万トンと見通す。

【需要見通しの算出方法】

① 平成８/９年から平成30/令和元年までの需要実績をそれぞれ当該年の人口で除し、各年の１人当たり消費量を算出

② ①で算出した値を用いたトレンド（回帰式）で、令和元/２年（令和元年７月から令和２年６月まで）の１人当たり消費量（推計値）を算出

③ ②で算出した値に令和元年の人口（推計値）を乗じて算出

① 平成8/9年から平成30/令和元年までの１人当たり消費量を算出

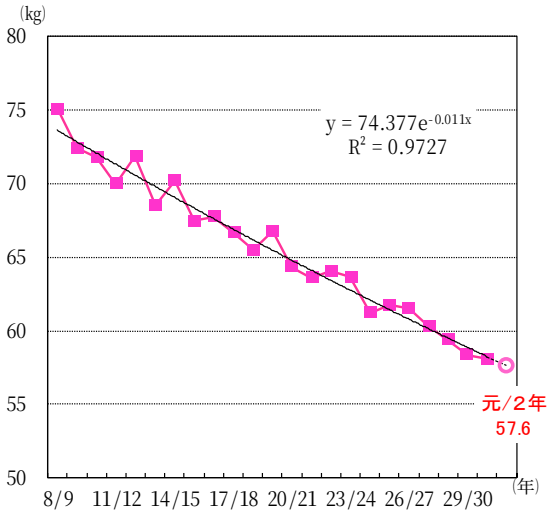
年	需要実績 ①	人口 ②	1人当たり消費量 ①/②
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
13/14	872.1	127,316	68.5
14/15	894.7	127,486	70.2
15/16	861.6	127,694	67.5
16/17	865.4	127,787	67.7
17/18	851.7	127,768	66.7
18/19	837.5	127,901	65.5
19/20	854.5	128,033	66.7
20/21	823.6	128,084	64.3
21/22	814.1	128,032	63.6
22/23	820.0	128,057	64.0
23/24	813.3	127,834	63.6
24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	126,933	59.4
29/30	739.6	126,706	58.4
30/元	734.4	126,443	58.1

注：人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。

② 令和元/２年の１人当たり消費量（推計値）を算出

(単位：kg)

年	x	1人当たり消費量 (y)	
8/9	1	75.0	
9/10	2	72.4	
10/11	3	71.7	
11/12	4	69.9	
12/13	5	71.8	
13/14	6	68.5	
14/15	7	70.2	
15/16	8	67.5	
16/17	9	67.7	
17/18	10	66.7	
18/19	11	65.5	
19/20	12	66.7	
20/21	13	64.3	
21/22	14	63.6	
22/23	15	64.0	
23/24	16	63.6	
24/25	17	61.2	
25/26	18	61.7	
26/27	19	61.5	
27/28	20	60.3	
28/29	21	59.4	
29/30	22	58.4	
30/元	23	58.1	(速報値)
元/2	24	57.6	(推計値)



③ 令和元/２年の需要見通しを算出

	元/2年
1人当たり消費量（推計値） ①	57.6kg

	元年
人口（推計値） ②	126,038千人

	元/2年
需要見通し ①×②	726.4万トン

注1：人口（推計値）は、「人口推計（総務省平成 31年4月公表）」の総人口（平成30年10月 現在）に、「日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所平成29年4月公表）」の平成30年から令和元年までの総人口（出生中位・死亡中位推計）の減少率を乗じて算出した値。

注2：図中の需要見通しは、1人当たり消費量（推計値）の実数に、人口（推計値）の実数を乗じて算出した値のため、図中の1人当たり消費量（推計値）（小数点第2位を四捨五入）に人口（推計値）（小数点第1位を四捨五入）を乗じて算出した値とは一致しない。

（3）　令和元/２年の需給見通し

- 令和元年6月末民間在庫量189万トンに、平成30年11月の基本指針で設定した生産量718～726万トンを加えた供給量の計は907～915万トン。この供給量から令和元/２年の需要見通し726万トンを差し引くと、令和２年6月末民間在庫量は180～188万トンと見通される。

（単位：万トン）

令和元年6月末民間在庫量	A	189
令和元年産主食用米等生産量	B	718～726
令和元/2年主食用米等供給量計	C＝A＋B	907～915
令和元/2年主食用米等需要量	D	726
令和2年6月末民間在庫量	E＝C－D	180～188

注1：「主食用米等」の中には、主食用に供給されるもののほか、加工用途及び輸出用に供給されているものの一部が含まれている。
注2：上記の需給見通しのほか、SBS方式による輸入予定数量を最大とした数量が主食用等として流通する見通し。
注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

＜令和元年産主食用米等生産量の見通し＞

令和２年６月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準（180万トン）となる「718万トン」から主食用米等の需要量の見通しと同水準の「726万トン」までと８万トンの幅をもって設定。

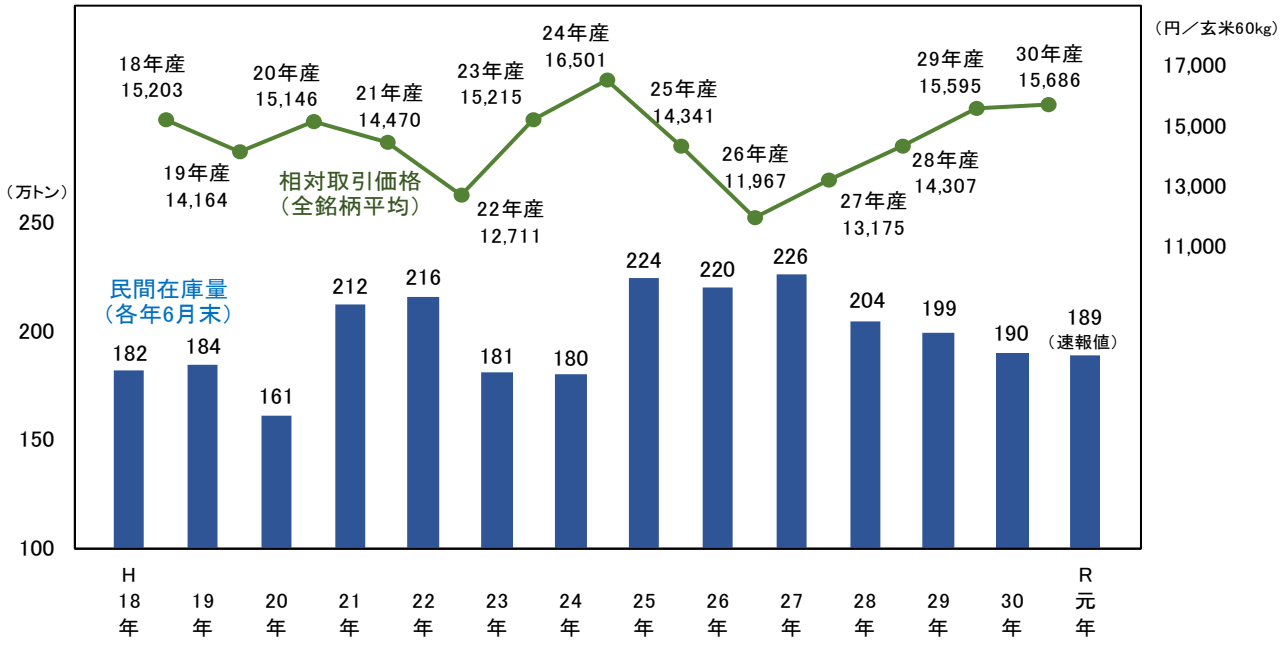
（参考）平成30年産（平成30年11月基本指針）との比較

平成30年産 735万トン ➡ 令和元年産 718万トン～726万トン

（前年比）▲17～▲9
▲2.3%～▲1.2%

（参考）相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、６月末における民間在庫量（生産、出荷、販売段階における在庫量）の水準もその要因の一つ。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月（30年産は元年7月）までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2　米の契約・販売

（1）政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

令和元年産

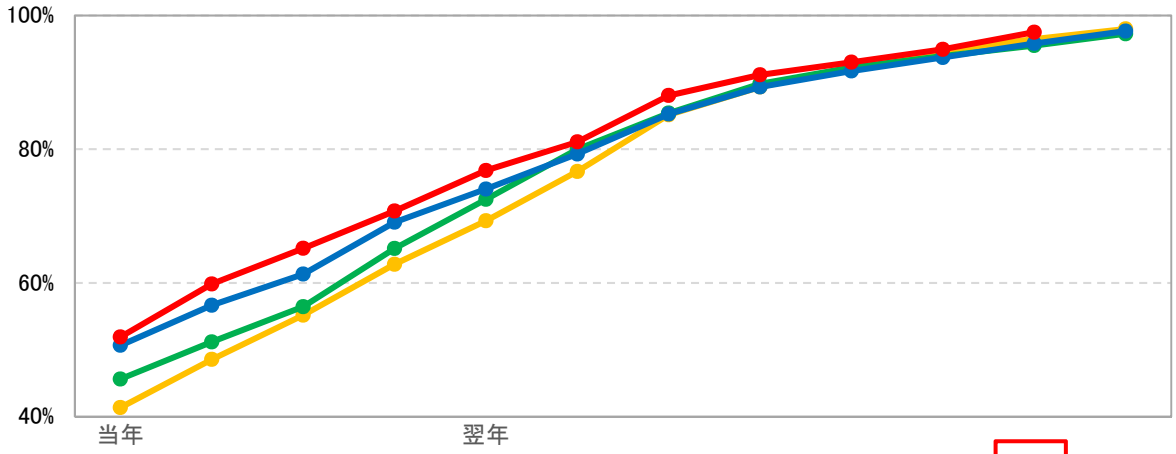
（単位：トン）

買入対象米穀の産地	都道府県別優先枠	買入入札の結果											落札合計数量
		第1回 平成31年1月29日実施	第2回 平成31年2月12日実施	第3回 平成31年3月5日実施	第4回 平成31年3月26日実施	第5回 平成31年4月16日実施	第6回 令和元年5月10日実施	第7回 令和元年5月23日実施	第8回 令和元年6月6日実施	第9回 令和元年6月27日実施	第10回 令和元年7月17日実施	第11回 令和元年8月27日実施	
北海道	4,200	0	0	51	0	1,211	0	0	0	900	0	0	2,162
青森	26,600	7,012	12,007	2,632	2,330	1,648	915	0	0	0	0	0	26,544
岩手	3,530	280	0	499	1,800	50	849	0	0	0	0	0	3,478
宮城	11,600	408	8,302	963	1,927	0	0	0	0	0	0	0	11,600
秋田	28,000	2,014	7,334	4,641	905	976	500	1,339	971	1,332	1,560	0	21,572
山形	30,500	281	73	19,332	520	3	35	1,008	27	12	0	0	21,291
福島	27,000	4,085	10,798	2,761	470	1,993	5,794	700	0	0	0	0	26,601
茨城	700	196	390	42	34	38	0	0	0	0	0	0	700
栃木	7,500	1,599	4,560	767	105	312	18	21	105	0	0	0	7,487
群馬	30	0	12	0	0	18	0	0	0	0	0	0	30
埼玉	220	94	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	220
千葉	1,580	120	772	422	266	0	0	0	0	0	0	0	1,580
東京													
神奈川													
新潟	27,800	160	20,052	218	995	3,127	107	36	94	0	300	0	25,089
富山	17,400	129	11,141	702	80	0	0	0	30	115	0	0	12,197
石川	7,430	138	220	3,858	344	1,500	222	286	757	0	0	0	7,325
福井	4,500	30	2,728	189	567	0	338	18	0	150	30	0	4,050
山梨													
長野	1,500	20	230	100	0	0	0	1,076	0	0	0	0	1,426
岐阜	450	10	128	80	0	90	0	0	0	127	0	0	435
静岡	20	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	20
愛知	2,000	30	444	10	76	244	18	0	0	0	0	0	822
三重	270	60	0	0	0	0	0	0	0	188	0	0	248
滋賀	1,670	79	13	949	46	165	36	10	0	10	10	0	1,318
京都													
大阪													
兵庫													
奈良													
和歌山													
鳥取	700	0	0	100	0	0	100	100	100	0	0	0	400
島根	130	0	0	0	0	130	0	0	0	0	0	0	130
岡山	1,780	85	166	110	3	41	492	47	0	0	33	0	977
広島													
山口													
徳島	1,120	798	140	57	45	15	61	0	0	0	0	0	1,116
香川													
愛媛													
高知	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10
福岡	270	0	119	44	20	0	2	79	0	0	0	0	264
佐賀	220	0	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	220
長崎	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10
熊本	290	0	20	56	0	111	42	0	0	18	0	0	247
大分	100	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0	0	94
宮崎													
鹿児島													
沖縄													
都道府県別枠計	209,140	17,628	79,775	38,813	10,533	11,692	9,623	4,720	2,084	2,852	1,943	0	179,663
指定なし	0	0	0	0	0	2,898	285	819	703	508	352	86	5,651
合　計	209,140	17,628	79,775	38,813	10,533	14,590	9,908	5,539	2,787	3,360	2,295	86	185,314
うちCPTPP分													9,000

（2）平成30年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、令和元年7月末現在）（速報）

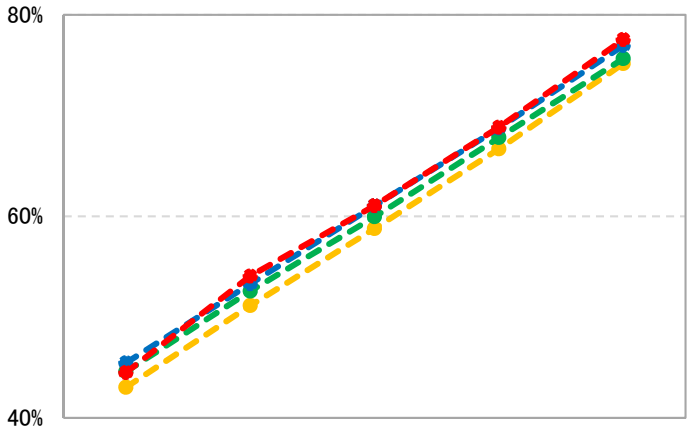
- 集荷数量は、対前年同月比▲4.6万トンの285万トン。
- 契約数量は、対前年同月比▲1.4万トンの278万トン。契約比率は、対前年同月比＋２%の98%
- 販売数量は、対前年同月比▲3.3万トンの221万トン。販売比率は、対前年同月比＋１%の78%

契約比率の推移(平成27～30年産)



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
27年産	41%	49%	55%	63%	69%	77%	85%	89%	92%	95%	96%	98%
28年産	46%	51%	56%	65%	72%	80%	85%	90%	92%	94%	96%	97%
29年産	51%	57%	61%	69%	74%	79%	85%	89%	92%	94%	96%	98%
30年産	52%	60%	65%	71%	77%	81%	88%	91%	93%	95%	98%	

販売比率の推移(平成27～30年産)



	3月	4月	5月	6月	7月
27年産	43%	51%	59%	67%	75%
28年産	45%	53%	60%	68%	76%
29年産	45%	53%	61%	69%	77%
30年産	44%	54%	61%	69%	78%

注：平成27～29年産は、各月末時点の契約・販売数量を生産年の翌年10月末の集荷数量で除して算出した最終実績ベース。
平成30年産は、各月末時点の契約・販売数量を令和元年７月末の集荷数量で除して算出した直近ベースのため、今後、集荷数量の増加に伴い契約・販売比率に変動が生じる場合がある。

集荷・契約・販売数量（累計、うるち米、令和元年7月末現在）（北海道から静岡まで）

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考：前年同月比（29年産の同時期との比較） 集荷数量	契約数量	販売数量
	（千玄米トン）	（千玄米トン）		（千玄米トン）				
北海道	309.5	302.6	98%	240.4	78%	84%	87%	85%
ななつぼし	140.1	137.0	98%	110.8	79%	81%	81%	80%
ゆめぴりか	74.3	73.8	99%	58.3	78%	83%	91%	84%
きらら397	33.6	32.6	97%	19.9	59%	88%	87%	87%
青　森	148.8	135.2	91%	109.7	74%	103%	101%	107%
まっしぐら	102.7	92.7	90%	77.3	75%	108%	107%	115%
つがるロマン	35.8	32.3	90%	23.0	64%	93%	89%	90%
岩　手	129.2	127.2	99%	96.0	74%	104%	104%	100%
ひとめぼれ	99.4	97.6	98%	75.1	76%	103%	103%	98%
あきたこまち	14.8	14.8	100%	10.9	74%	89%	89%	99%
いわてっこ	2.8	2.8	100%	1.8	64%	111%	112%	120%
宮　城	171.6	179.4	105%	119.8	70%	110%	115%	113%
ひとめぼれ	136.8	142.5	104%	96.1	70%	109%	112%	112%
つや姫	12.0	12.8	107%	8.9	75%	104%	111%	110%
ササニシキ	8.1	8.6	105%	5.6	69%	93%	100%	91%
秋　田	251.3	247.0	98%	201.5	80%	104%	110%	108%
あきたこまち	202.0	200.2	99%	170.9	85%	102%	108%	107%
めんこいな	15.1	14.0	93%	8.8	59%	157%	156%	157%
ひとめぼれ	19.1	18.6	97%	13.1	68%	94%	93%	99%
山　形	184.5	183.9	100%	147.8	80%	91%	92%	95%
はえぬき	111.3	110.0	99%	85.3	77%	90%	89%	95%
つや姫	35.1	35.9	103%	30.9	88%	90%	94%	89%
ひとめぼれ	14.5	14.2	98%	12.4	85%	79%	79%	80%
福　島	158.7	147.3	93%	102.1	64%	98%	95%	96%
コシヒカリ中通り	45.9	41.8	91%	31.4	68%	89%	91%	84%
コシヒカリ会津	41.3	40.9	99%	21.8	53%	86%	80%	76%
コシヒカリ浜通り	7.5	7.0	93%	4.7	62%	79%	75%	82%
ひとめぼれ	29.9	27.8	93%	23.2	77%	101%	104%	122%
天のつぶ	20.7	18.0	87%	11.5	56%	159%	152%	147%
茨　城	71.5	68.7	96%	60.2	84%	99%	99%	99%
コシヒカリ	53.4	51.6	97%	44.0	82%	97%	97%	97%
あきたこまち	9.9	9.9	100%	9.9	100%	101%	101%	101%
ミルキークイーン	1.2	1.2	100%	1.2	99%	…	…	…
栃　木	136.4	129.9	95%	87.7	64%	111%	113%	105%
コシヒカリ	106.9	102.2	96%	67.0	63%	107%	109%	98%
あさひの夢	9.6	9.3	97%	6.7	70%	119%	120%	163%
なすひかり	9.0	8.0	89%	6.3	70%	123%	123%	121%
群　馬	25.0	23.5	94%	16.4	66%	96%	90%	88%
あさひの夢	17.6	16.7	95%	10.9	62%	99%	95%	89%
ゆめまつり	4.8	4.2	86%	3.6	74%	84%	72%	77%
埼　玉	18.4	17.0	92%	13.0	71%	89%	85%	92%
彩のかがやき	8.9	8.0	90%	6.7	75%	89%	82%	90%
コシヒカリ	4.7	4.4	94%	3.2	67%	75%	75%	70%
彩のきずな	3.5	3.4	96%	2.2	63%	111%	108%	145%
千　葉	79.4	77.5	98%	71.4	90%	105%	104%	103%
コシヒカリ	37.9	36.5	96%	33.0	87%	98%	100%	94%
ふさこがね	18.2	17.9	98%	16.3	89%	126%	116%	122%
ふさおとめ	17.9	17.8	100%	17.1	95%	102%	100%	103%
東　京	0.0	0.0	100%	0.0	100%	…	…	…
神奈川	2.3	1.9	83%	1.9	83%	91%	89%	89%
山　梨	5.9	4.4	74%	4.4	74%	95%	86%	86%
コシヒカリ	5.0	3.8	75%	3.8	75%	95%	87%	87%
長　野	67.1	65.5	98%	50.1	75%	98%	96%	99%
コシヒカリ	53.0	52.3	99%	39.9	75%	98%	97%	102%
あきたこまち	7.6	7.1	94%	5.2	69%	96%	92%	88%
静　岡	6.0	6.0	100%	6.0	100%	92%	92%	92%
コシヒカリ	4.0	4.0	100%	4.0	100%	93%	93%	93%
きぬむすめ	0.7	0.7	100%	0.7	100%	102%	102%	102%
あいちのかおり	0.8	0.8	100%	0.8	100%	85%	85%	85%

注：本表の注意点は次々頁の脚注を参照

集荷・契約・販売数量（累計、うるち米、令和元年7月末現在）（新潟から広島まで）

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考：前年同月比（29年産の同時期との比較） 集荷数量	契約数量	販売数量
	（千玄米ﾄﾝ）	（千玄米ﾄﾝ）		（千玄米ﾄﾝ）				
新　潟	261.0	257.6	99%	220.3	84%	101%	101%	100%
コシヒカリ一般	125.8	124.1	99%	110.1	87%	89%	89%	91%
コシヒカリ魚沼	31.2	30.0	96%	27.9	89%	105%	106%	111%
コシヒカリ佐渡	11.9	11.7	98%	10.5	88%	87%	87%	90%
コシヒカリ岩船	10.6	10.4	99%	9.5	89%	94%	93%	99%
こしいぶき	46.4	45.1	97%	34.8	75%	120%	119%	109%
富　山	91.9	87.9	96%	77.9	85%	100%	100%	103%
コシヒカリ	70.5	67.5	96%	60.3	86%	95%	93%	97%
てんたかく	8.3	7.6	91%	7.3	88%	115%	108%	116%
石　川	27.2	27.1	100%	17.9	66%	106%	106%	96%
コシヒカリ	16.8	16.8	100%	10.3	61%	96%	96%	79%
ゆめみづほ	5.4	5.4	100%	3.7	68%	113%	113%	116%
福　井	69.9	69.2	99%	56.9	81%	104%	105%	98%
コシヒカリ	30.0	29.9	99%	24.6	82%	92%	92%	87%
ハナエチゼン	20.4	20.2	99%	18.4	90%	109%	109%	107%
岐　阜	19.5	19.5	100%	15.2	78%	74%	75%	83%
ハツシモ	7.4	7.2	97%	5.4	73%	55%	55%	68%
コシヒカリ	6.6	6.4	97%	5.3	81%	93%	92%	88%
あきたこまち	1.7	1.7	100%	1.6	93%	87%	87%	108%
愛　知	32.0	31.3	98%	25.1	78%	93%	93%	100%
あいちのかおり	16.9	17.3	102%	12.4	74%	93%	98%	104%
コシヒカリ	9.7	9.5	98%	8.3	86%	98%	96%	102%
大地の風	1.3	1.3	101%	1.1	84%	95%	96%	97%
三　重	28.6	28.2	98%	24.4	85%	102%	101%	101%
コシヒカリ一般	15.7	15.7	100%	13.8	88%	102%	102%	100%
コシヒカリ伊賀	5.9	5.8	97%	5.0	84%	96%	94%	97%
キヌヒカリ	2.1	2.0	93%	1.6	75%	97%	90%	86%
滋　賀	56.7	53.7	95%	45.5	80%	97%	93%	91%
コシヒカリ	20.6	19.4	94%	16.1	78%	94%	89%	82%
キヌヒカリ	10.8	9.9	92%	9.1	84%	98%	93%	98%
日本晴	4.7	4.3	92%	2.6	56%	95%	86%	86%
京　都	9.4	11.3	120%	7.6	81%	75%	91%	74%
コシヒカリ	5.4	6.8	127%	4.6	86%	76%	97%	77%
キヌヒカリ	2.2	2.6	119%	2.0	90%	74%	88%	75%
ヒノヒカリ	0.9	1.0	104%	0.6	62%	…	…	…
大　阪	－	－	－	－	－	…	…	…
兵　庫	40.1	37.7	94%	32.0	80%	98%	96%	110%
コシヒカリ	11.1	11.0	99%	10.3	93%	95%	95%	101%
ヒノヒカリ	3.7	3.4	92%	2.7	73%	80%	80%	85%
キヌヒカリ	3.4	3.2	96%	2.7	81%	96%	96%	106%
奈　良	7.9	6.4	82%	6.4	82%	90%	90%	90%
ヒノヒカリ	6.1	4.8	80%	4.8	80%	89%	91%	91%
和歌山	0.9	0.9	100%	0.9	100%	60%	60%	60%
鳥　取	22.3	21.4	96%	18.9	85%	106%	109%	111%
コシヒカリ	7.6	7.4	97%	6.5	86%	98%	101%	100%
きぬむすめ	8.4	7.9	94%	6.8	81%	114%	116%	121%
ひとめぼれ	5.9	5.7	97%	5.2	88%	108%	110%	114%
島　根	38.1	37.0	97%	31.3	82%	98%	99%	100%
コシヒカリ	16.6	16.1	97%	13.9	84%	92%	94%	91%
きぬむすめ	14.4	13.8	96%	11.3	78%	106%	106%	113%
つや姫	4.5	4.5	100%	3.8	85%	104%	104%	103%
岡　山	22.6	22.7	100%	14.7	65%	89%	90%	90%
アケボノ	6.7	6.7	100%	3.4	51%	90%	90%	95%
あきたこまち	1.8	1.8	100%	1.6	85%	89%	89%	89%
ヒノヒカリ	2.6	2.6	100%	1.9	73%	84%	84%	97%
広　島	32.5	39.7	122%	25.3	78%	94%	119%	90%
コシヒカリ	13.9	16.6	120%	11.6	83%	91%	111%	88%
あきさかり	5.9	6.5	112%	4.7	80%	…	…	…
あきろまん	3.1	4.1	134%	2.2	71%	82%	110%	72%

注：本表の注意点は次頁の脚注を参照

集荷・契約・販売数量（累計、うるち米、令和元年7月末現在）（山口から沖縄まで、全国計）

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考：前年同月比（29年産の同時期との比較） 集荷数量	契約数量	販売数量
	（千玄米トン）	（千玄米トン）		（千玄米トン）				
山　口	40.1	39.8	99%	28.5	71%	122%	123%	124%
コシヒカリ	11.9	11.7	98%	9.4	78%	128%	128%	129%
ひとめぼれ	9.8	9.7	99%	7.6	78%	125%	126%	130%
ヒノヒカリ	8.6	8.5	99%	5.8	67%	124%	125%	128%
徳　島	4.9	4.9	100%	4.3	88%	92%	92%	82%
コシヒカリ	2.3	2.3	100%	2.2	94%	80%	80%	75%
キヌヒカリ	1.3	1.3	100%	1.1	83%	87%	87%	74%
香　川	21.5	19.6	91%	15.0	70%	92%	84%	82%
ヒノヒカリ	6.6	6.5	98%	4.1	62%	67%	66%	58%
コシヒカリ	7.6	7.2	94%	6.1	80%	100%	94%	89%
おいでまい	4.4	3.8	87%	2.9	66%	…	…	…
愛　媛	9.9	9.0	90%	8.4	85%	85%	88%	85%
コシヒカリ	4.0	3.8	96%	3.8	94%	91%	91%	90%
ヒノヒカリ	1.7	1.3	75%	1.3	74%	76%	72%	72%
あきたこまち	1.4	1.2	89%	1.2	87%	89%	92%	90%
高　知	8.4	8.2	98%	8.2	98%	122%	119%	120%
コシヒカリ	5.8	5.8	100%	5.8	100%	102%	102%	102%
ヒノヒカリ	0.9	0.9	93%	0.9	93%	396%	367%	367%
福　岡	52.8	51.6	98%	42.0	80%	98%	99%	96%
夢つくし	17.0	16.9	100%	14.6	86%	100%	102%	96%
ヒノヒカリ	14.0	13.7	98%	10.9	78%	96%	96%	95%
元気つくし	18.6	17.6	95%	14.5	78%	97%	100%	98%
佐　賀	42.0	42.0	100%	31.5	75%	98%	99%	95%
夢しずく	14.5	14.5	100%	10.1	70%	109%	109%	91%
さがびより	13.1	13.1	100%	10.4	79%	98%	98%	102%
ヒノヒカリ	9.3	9.3	100%	6.8	73%	92%	92%	95%
長　崎	11.5	11.4	99%	8.8	76%	100%	100%	93%
ヒノヒカリ	3.4	3.4	99%	2.7	79%	94%	93%	90%
にこまる	5.0	4.9	98%	3.5	70%	104%	104%	93%
コシヒカリ	1.4	1.4	100%	1.3	97%	88%	88%	89%
熊　本	38.0	32.0	84%	26.2	69%	102%	100%	90%
ヒノヒカリ	16.4	12.3	75%	10.9	67%	107%	99%	88%
森のくまさん	7.6	6.5	86%	4.8	64%	101%	97%	90%
コシヒカリ	5.7	5.7	100%	4.6	81%	88%	101%	92%
大　分	11.9	11.9	100%	7.9	66%	89%	89%	85%
ヒノヒカリ	8.0	8.0	100%	4.7	59%	85%	85%	76%
ひとめぼれ	0.9	0.9	101%	0.6	76%	102%	101%	100%
宮　崎	14.8	14.8	100%	14.0	95%	91%	91%	89%
コシヒカリ	8.5	8.5	100%	8.5	100%	85%	85%	85%
ヒノヒカリ	5.4	5.4	100%	4.7	88%	102%	102%	99%
鹿児島	12.1	12.1	100%	10.8	89%	90%	90%	87%
ヒノヒカリ	4.8	4.8	100%	3.8	78%	91%	91%	82%
コシヒカリ	3.5	3.5	100%	3.5	100%	89%	89%	89%
あきほなみ	1.7	1.7	100%	1.4	85%	78%	78%	78%
沖　縄	1.6	1.6	100%	1.5	99%	101%	101%	100%
全　国　①	2,851	2,780	98%	2,211	78%	98%	99%	99%
参考 前年同月(29年産) ②	2,897	2,794	96%	2,244	77%			
参考 前年同月差 (①−②)	▲ 46	▲ 14	＋ 2%	▲ 33	＋ 1%			

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1 ：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
注2 ：報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
注3 ：集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。
注4 ：契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。
注5 ：販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。
注6 ：銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。
注7 ：全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。
注8 ：「－」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。
注9 ：「参考：前年同月比」で、30年産又は29年産の同時期に数量がなかった場合は、「…」としている。

- 平成３０年産において事前契約を行っている都道府県は38道府県、うち複数年契約を行っている都道府県は23道県。
- また、平成２９年産と比べて事前契約数量が増加した都道府県は21県。

平成29・30年産　都道府県別事前契約数量の推移

単位：千玄米トン

	29年産 ①	30年産 ②	播種前・収穫前契約	複数年契約	前年差 ③=②-①	前年比 ④=②/①
1 秋田	90.5	183.1	97.1	86.0	+92.6	202%
2 栃木	64.8	73.1	2.0	71.1	+8.3	113%
3 宮城	118.7	126.7	18.6	108.1	+8.0	107%
4 長野	27.4	32.5	0.7	31.8	+5.2	119%
5 愛媛	0.9	4.2	4.2	－	+3.3	473%
6 長崎	4.0	7.0	7.0	－	+3.0	175%
7 富山	46.1	48.9	40.7	8.2	+2.8	106%
8 山口	24.4	27.1	26.2	0.8	+2.7	111%
9 兵庫	10.0	12.5	12.5	－	+2.6	126%
10 香川	14.1	16.4	16.4	－	+2.3	116%
11 山形	71.9	73.7	51.5	22.2	+1.8	102%
12 福井	6.8	8.3	－	8.3	+1.5	122%
13 熊本	15.8	17.1	17.1	－	+1.3	108%
14 広島	25.1	26.2	24.2	2.0	+1.1	105%
15 埼玉	8.2	9.2	8.6	0.6	+1.1	113%
16 岩手	91.3	92.2	9.9	82.4	+1.0	101%
17 愛知	14.5	15.1	13.5	1.5	+0.6	104%
18 岡山	－	0.5	0.5	－	+0.5	
19 鳥取	5.4	5.7	5.7	－	+0.3	105%
20 三重	19.8	20.0	20.0	－	+0.2	101%
21 福岡	32.9	33.0	32.4	0.6	+0.1	100%
22 群馬	0.1	0.1	0.1	－	±0	100%
23 高知	2.1	2.0	2.0	－	▲ 0.1	95%
24 佐賀	26.3	26.2	26.2	－	▲ 0.1	99%
25 宮崎	8.6	8.2	8.2	－	▲ 0.3	96%
26 石川	23.8	23.3	21.8	1.5	▲ 0.5	98%
27 静岡	2.5	1.9	1.9	－	▲ 0.6	77%
28 大分	5.9	5.3	5.3	－	▲ 0.6	89%
29 福島	50.2	49.5	7.8	41.8	▲ 0.7	99%
30 島根	35.0	34.2	31.0	3.2	▲ 0.7	98%
31 京都	8.0	7.1	7.1	－	▲ 0.9	89%
32 徳島	0.9	－	－	－	▲ 0.9	
33 青森	54.1	52.4	15.2	37.2	▲ 1.7	97%
34 滋賀	43.0	40.0	3.5	36.5	▲ 3.0	93%
35 岐阜	13.9	9.2	6.6	2.6	▲ 4.7	66%
36 新潟	166.1	159.9	32.7	127.2	▲ 6.2	96%
37 茨城	24.5	16.0	13.5	2.5	▲ 8.5	65%
38 北海道	183.1	174.6	1.2	173.3	▲ 8.5	95%
39 千葉	27.9	10.3	－	10.3	▲ 17.5	37%
40 東京						
神奈川						
山梨						
大阪						
奈良						
和歌山						
鹿児島						
沖縄						
全国	1,369	1,453	593	860	+84	106%

注1：29年産は生産年の翌年10月末時点、30年産は元年7月末時点の数量である。
注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

平成30年産　業態区分別事前契約数量

単位：千玄米トン

	事前契約	複数年契約	播種前・収穫前契約
30年産	1,453	860	593
全国農業協同組合連合会 経済連及び県単一農協等 全集連・全集連系県集荷組合	1,373	837	536
単位農協 全集連系業者	79	23	57

注1：数量は、元年7月末時点である。
注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

平成29・30年産　都道府県別事前契約状況

単位：千玄米トン

都道府県	29年産					30年産（令和元年7月末現在）				
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 ④	うち事前契約 ⑤	事前契約比率 ⑤/④	うち複数年契約 ⑥	複数年契約比率 ⑥/④
北海道	373.0	183.1	49%	142.6	38%	309.5	174.6	56%	173.3	56%
青　森	145.6	54.1	37%	37.0	25%	148.8	52.4	35%	37.2	25%
岩　手	124.9	91.3	73%	83.1	67%	129.2	92.2	71%	82.4	64%
宮　城	155.8	118.7	76%	103.7	67%	171.6	126.7	74%	108.1	63%
秋　田	243.5	90.5	37%	62.8	26%	251.3	183.1	73%	86.0	34%
山　形	207.8	71.9	35%	19.8	10%	184.5	73.7	40%	22.2	12%
福　島	165.1	50.2	30%	43.7	26%	158.7	49.5	31%	41.8	26%
茨　城	72.4	24.5	34%	2.5	3%	71.5	16.0	22%	2.5	3%
栃　木	122.7	64.8	53%	64.8	53%	136.4	73.1	54%	71.1	52%
群　馬	26.2	0.1	0%	－	－	25.0	0.1	0%	－	－
埼　玉	21.2	8.2	38%	－	－	18.4	9.2	50%	0.6	3%
千　葉	75.6	27.9	37%	10.3	14%	79.4	10.3	13%	10.3	13%
東　京	－	－	－	－	－	0.0	－	－	－	－
神奈川	2.5	－	－	－	－	2.3	－	－	－	－
山　梨	6.3	－	－	－	－	5.9	－	－	－	－
長　野	68.8	27.4	40%	25.7	37%	67.1	32.5	49%	31.8	47%
静　岡	6.6	2.5	38%	－	－	6.0	1.9	32%	－	－
新　潟	258.4	166.1	64%	106.7	41%	261.0	159.9	61%	127.2	49%
富　山	92.1	46.1	50%	8.6	9%	91.9	48.9	53%	8.2	9%
石　川	25.7	23.8	93%	1.5	6%	27.2	23.3	86%	1.5	6%
福　井	67.1	6.8	10%	6.8	10%	69.9	8.3	12%	8.3	12%
岐　阜	26.8	13.9	52%	2.6	10%	19.5	9.2	47%	2.6	13%
愛　知	34.4	14.5	42%	－	－	32.0	15.1	47%	1.5	5%
三　重	28.0	19.8	71%	－	－	28.6	20.0	70%	－	－
滋　賀	58.3	43.0	74%	34.2	59%	56.7	40.0	71%	36.5	64%
京　都	12.6	8.0	64%	－	－	9.4	7.1	76%	－	－
大　阪	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
兵　庫	40.9	10.0	24%	－	－	40.1	12.5	31%	－	－
奈　良	8.7	－	－	－	－	7.9	－	－	－	－
和歌山	1.5	－	－	－	－	0.9	－	－	－	－
鳥　取	21.1	5.4	26%	－	－	22.3	5.7	25%	－	－
島　根	39.0	35.0	90%	3.3	8%	38.1	34.2	90%	3.2	8%
岡　山	25.5	－	－	－	－	22.6	0.5	2%	－	－
広　島	34.7	25.1	72%	2.0	6%	32.5	26.2	81%	2.0	6%
山　口	32.8	24.4	74%	0.7	2%	40.1	27.1	68%	0.8	2%
徳　島	5.3	0.9	17%	－	－	4.9	－	－	－	－
香　川	23.7	14.1	59%	－	－	21.5	16.4	76%	－	－
愛　媛	11.8	0.9	7%	－	－	9.9	4.2	42%	－	－
高　知	6.9	2.1	30%	－	－	8.4	2.0	23%	－	－
福　岡	53.9	32.9	61%	0.6	1%	52.8	33.0	63%	0.6	1%
佐　賀	42.6	26.3	62%	－	－	42.0	26.2	62%	－	－
長　崎	11.7	4.0	34%	－	－	11.5	7.0	61%	－	－
熊　本	37.5	15.8	42%	－	－	38.0	17.1	45%	－	－
大　分	13.5	5.9	44%	－	－	11.9	5.3	45%	－	－
宮　崎	16.2	8.6	53%	－	－	14.8	8.2	55%	－	－
鹿児島	13.4	－	－	－	－	12.1	－	－	－	－
沖　縄	1.5	－	－	－	－	1.6	－	－	－	－
全　国	2,914	1,369	47%	763	26%	2,851	1,453	51%	860	30%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注１：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
２：報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
３：29年産は生産年の翌年10月末時点、30年産は元年7月末時点の数量である。
４：集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。
５：事前契約分とは、注４の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。
６：全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、都道府県の合計と一致しない。
７：「－」は、集荷数量や事前契約に該当がないもの。

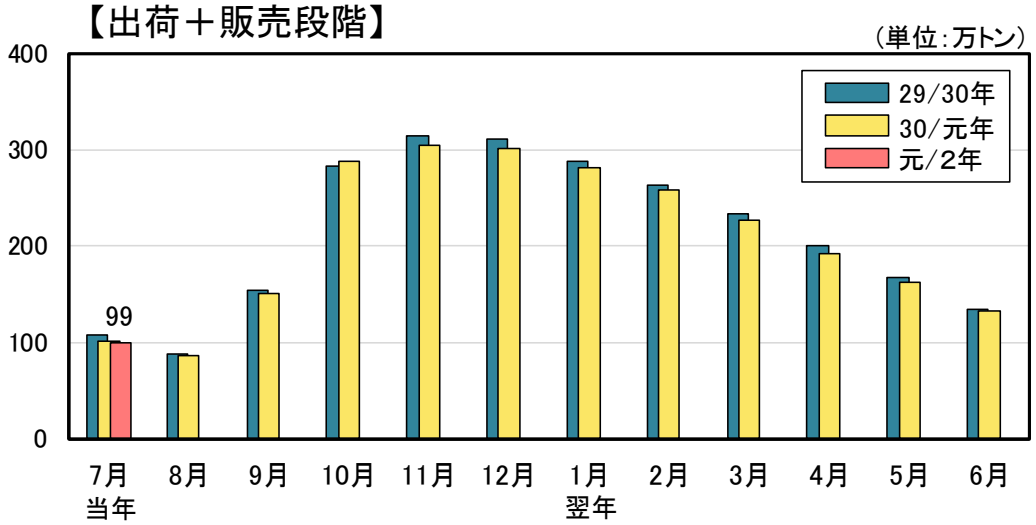
Ⅱ　米の在庫情報

（１）全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 令和元年７月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月比▲３万トンの99万トンとなっている。

※　産地別の在庫量は、14頁以降参照。

【出荷＋販売段階】



（単位：万玄米トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25 年 産 米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1 年古米（24年産）	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	(注7) 119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26 年 産 米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1 年古米（25年産）	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27 年 産 米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1 年古米（26年産）	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28 年 産 米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1 年古米（27年産）	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6
29 年 産 米	1	15	104	241	282	287	270	249	223	192	160	129
1 年古米（28年産）	103	71	48	38	29	20	14	11	8	6	5	4
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30 年 産 米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1 年古米（29年産）	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/２年	99											
対前年差	▲3											
元 年 産 米	1											
1 年古米（30年産）	95											

資料：　農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：１　水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
２　出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
３　販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
４　期間については、元/２年であれば、元年７月～２年６月である。
５　年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と１年古米の計と一致しない。
６　26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。
７　米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年７月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

（単位：万玄米トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25 年 産 米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1 年古米（24年産）	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26 年 産 米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1 年古米（25年産）	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27 年 産 米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1 年古米（26年産）	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28 年 産 米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1 年古米（27年産）	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	231	262	257	240	218	186	158	130	103
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲19	▲20	▲18	▲14	▲13	▲12	▲9
29 年 産 米	0	11	89	211	247	248	233	213	183	155	128	102
1 年古米（28年産）	83	54	34	19	13	9	6	4	3	2	2	1
30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
30 年 産 米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1 年古米（29年産）	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
元/２年	74											
対前年差	▲2											
元 年 産 米	0											
1 年古米（30年産）	73											

※本表の注意点は前頁の出荷＋販売段階の脚注を参照

【販売段階】

（単位：万玄米トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25 年 産 米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1 年古米（24年産）	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26 年 産 米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1 年古米（25年産）	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27 年 産 米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1 年古米（26年産）	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28 年 産 米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1 年古米（27年産）	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54	54	48	45	48	44	37	31
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	+1	+1	+3	±0	+1	+2	+2	+2
29 年 産 米	0	4	15	30	35	39	37	36	40	37	32	28
1 年古米（28年産）	20	16	13	20	16	12	8	7	5	4	3	2
30/元年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	31
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	±0
30 年 産 米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	27
1 年古米（29年産）	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	3
元/２年	26											
対前年差	±0											
元 年 産 米	0											
1 年古米（30年産）	22											

※本表の注意点は前頁の出荷＋販売段階の脚注を参照

（２）産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成30年産（令和元年7月末）

【出荷＋販売段階】

（単位：千トン）

産　地	30年産（R1.7末）	29年産（H30.7末）	前年同月比
北海道	102.5	119.9	85%
青　森	58.4	64.7	90%
岩　手	42.5	38.5	110%
宮　城	67.1	66.1	101%
秋　田	64.4	76.8	84%
山　形	51.1	62.8	81%
福　島	76.4	78.8	97%
茨　城	28.2	32.0	88%
栃　木	64.3	57.6	112%
群　馬	10.7	11.3	95%
埼　玉	9.8	13.8	71%
千　葉	19.0	19.0	100%
東　京	0.0	0.0	－
神奈川	0.4	0.5	96%
新　潟	57.9	53.4	108%
富　山	21.4	21.9	98%
石　川	16.5	13.8	120%
福　井	18.8	13.5	139%
山　梨	1.8	1.4	131%
長　野	21.9	22.7	97%
岐　阜	8.1	11.2	72%
静　岡	1.9	2.2	87%
愛　知	10.4	13.3	78%
三　重	8.8	5.8	153%

産　地	30年産（R1.7末）	29年産（H30.7末）	前年同月比
滋　賀	17.8	13.6	130%
京　都	3.5	4.0	89%
大　阪	0.4	0.8	48%
兵　庫	16.2	17.1	95%
奈　良	2.3	2.3	99%
和歌山	0.4	0.8	54%
鳥　取	8.1	9.8	83%
島　根	8.8	8.8	100%
岡　山	19.3	21.3	91%
広　島	11.1	9.9	112%
山　口	12.9	11.8	110%
徳　島	2.4	2.5	95%
香　川	7.4	6.0	124%
愛　媛	2.9	3.1	93%
高　知	1.7	2.8	60%
福　岡	18.5	16.8	110%
佐　賀	12.1	11.1	109%
長　崎	3.2	2.6	124%
熊　本	20.9	14.1	148%
大　分	7.0	7.2	97%
宮　崎	2.5	2.1	117%
鹿児島	6.6	4.4	149%
沖　縄	0.0	0.0	－
全国計	948	974	97%

資料：　農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注１：　水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注２：　出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

注３：　販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

（３）平成30・令和元年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

（北海道から秋田）　　（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	出荷＋販売段階	108.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	102.5											
	出荷段階	78.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	77.8											
	販売段階	30.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	24.6											
青森	出荷＋販売段階	59.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	58.4											
	出荷段階	42.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	42.6											
	販売段階	16.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	15.8											
岩手	出荷＋販売段階	43.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	42.5											
	出荷段階	35.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	35.1											
	販売段階	8.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	7.4											
宮城	出荷＋販売段階	69.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	67.1											
	出荷段階	54.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	54.2											
	販売段階	14.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	12.9											
秋田	出荷＋販売段階	66.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	64.4											
	出荷段階	52.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	52.2											
	販売段階	13.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	12.2											

資料：　農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：１　水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　　２　出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
　　３　販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

（山形から埼玉）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷＋販売段階	53.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	51.1											
	出荷段階	42.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	41.8											
	販売段階	11.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	9.3											
福島	出荷＋販売段階	78.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	76.4											
	出荷段階	60.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	59.2											
	販売段階	18.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	17.3											
茨城	出荷＋販売段階	29.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	28.2											
	出荷段階	16.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	16.3											
	販売段階	13.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	12.0											
栃木	出荷＋販売段階	65.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	64.3											
	出荷段階	49.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	49.5											
	販売段階	15.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	14.8											
群馬	出荷＋販売段階	10.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	10.7											
	出荷段階	8.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	8.6											
	販売段階	2.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.0											
埼玉	出荷＋販売段階	10.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	9.8											
	出荷段階	7.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	7.2											
	販売段階	3.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.6											

（千葉から静岡）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷＋販売段階	19.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	19.0											
	出荷段階	9.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	9.5											
	販売段階	9.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	9.5											
東京	出荷＋販売段階	0.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.0											
	出荷段階												
	元年産米												
	1年古米（30年産）												
	販売段階	0.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.0											
神奈川	出荷＋販売段階	0.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.4											
	出荷段階	0.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.4											
	販売段階	0.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.0											
山梨	出荷＋販売段階	1.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.8											
	出荷段階	1.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.5											
	販売段階	0.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.3											
長野	出荷＋販売段階	22.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	21.9											
	出荷段階	18.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	18.3											
	販売段階	4.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.6											
静岡	出荷＋販売段階	2.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.9											
	出荷段階	0.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.5											
	販売段階	1.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.5											

（新潟から愛知）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷＋販売段階	58.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	57.9											
	出荷段階	45.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	44.9											
	販売段階	13.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	13.0											
富山	出荷＋販売段階	21.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	21.4											
	出荷段階	15.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	15.8											
	販売段階	5.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	5.7											
石川	出荷＋販売段階	17.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	16.5											
	出荷段階	12.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	12.3											
	販売段階	4.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	4.3											
福井	出荷＋販売段階	19.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	18.8											
	出荷段階	14.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	14.3											
	販売段階	4.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	4.5											
岐阜	出荷＋販売段階	8.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	8.1											
	出荷段階	5.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	5.0											
	販売段階	3.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.0											
愛知	出荷＋販売段階	10.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	10.4											
	出荷段階	8.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	7.9											
	販売段階	2.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.4											

（三重から奈良）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷＋販売段階	10.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	8.8											
	出荷段階	6.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	5.2											
	販売段階	4.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.7											
滋賀	出荷＋販売段階	19.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	17.8											
	出荷段階	15.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	14.1											
	販売段階	4.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.7											
京都	出荷＋販売段階	3.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.5											
	出荷段階	2.7											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.7											
	販売段階	0.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.8											
大阪	出荷＋販売段階	0.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.4											
	出荷段階	0.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.3											
	販売段階	0.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.0											
兵庫	出荷＋販売段階	16.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	16.2											
	出荷段階	14.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	14.1											
	販売段階	2.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.1											
奈良	出荷＋販売段階	2.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.3											
	出荷段階	1.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.4											
	販売段階	1.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.8											

（和歌山から山口）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷＋販売段階	0.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.4											
	出荷段階												
	元年産米												
	1年古米（30年産）												
	販売段階	0.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.4											
鳥取	出荷＋販売段階	8.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	8.1											
	出荷段階	5.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	5.9											
	販売段階	2.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.2											
島根	出荷＋販売段階	8.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	8.8											
	出荷段階	6.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	6.8											
	販売段階	2.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.9											
岡山	出荷＋販売段階	19.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	19.3											
	出荷段階	15.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	15.2											
	販売段階	4.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	4.1											
広島	出荷＋販売段階	11.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	11.1											
	出荷段階	8.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	8.2											
	販売段階	3.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.9											
山口	出荷＋販売段階	13.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	12.9											
	出荷段階	11.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	11.5											
	販売段階	1.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.4											

（徳島から佐賀）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷＋販売段階	2.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.4											
	出荷段階	1.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.0											
	販売段階	1.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.5											
香川	出荷＋販売段階	7.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	7.4											
	出荷段階	6.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	6.5											
	販売段階	1.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.9											
愛媛	出荷＋販売段階	3.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.9											
	出荷段階	2.6											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.4											
	販売段階	0.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.5											
高知	出荷＋販売段階	2.2											
	元年産米	0.2											
	1年古米（30年産）	1.7											
	出荷段階	0.4											
	元年産米	0.1											
	1年古米（30年産）	0.3											
	販売段階	1.8											
	元年産米	0.1											
	1年古米（30年産）	1.4											
福岡	出荷＋販売段階	18.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	18.5											
	出荷段階	15.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	14.9											
	販売段階	3.9											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.6											
佐賀	出荷＋販売段階	12.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	12.1											
	出荷段階	10.8											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	10.8											
	販売段階	1.4											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	1.3											

（長崎から沖縄）

（単位：千玄米トン）

		元年7月	8月	9月	10月	11月	12月	2年1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷＋販売段階	3.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.2											
	出荷段階	3.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	3.0											
	販売段階	0.3											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	0.2											
熊本	出荷＋販売段階	21.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	20.9											
	出荷段階	15.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	15.0											
	販売段階	6.5											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	5.9											
大分	出荷＋販売段階	7.2											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	7.0											
	出荷段階	5.0											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	5.0											
	販売段階	2.1											
	元年産米												
	1年古米（30年産）	2.0											
宮崎	出荷＋販売段階	6.0											
	元年産米	3.5											
	1年古米（30年産）	2.5											
	出荷段階	3.9											
	元年産米	2.2											
	1年古米（30年産）	1.6											
	販売段階	2.1											
	元年産米	1.3											
	1年古米（30年産）	0.8											
鹿児島	出荷＋販売段階	7.9											
	元年産米	0.8											
	1年古米（30年産）	6.6											
	出荷段階	5.7											
	元年産米	0.2											
	1年古米（30年産）	5.0											
	販売段階	2.2											
	元年産米	0.6											
	1年古米（30年産）	1.6											
沖縄	出荷＋販売段階	0.6											
	元年産米	0.6											
	1年古米（30年産）	0.0											
	出荷段階	0.3											
	元年産米	0.2											
	1年古米（30年産）	0.0											
	販売段階	0.3											
	元年産米	0.3											
	1年古米（30年産）												